

みやぎ生活協同組合

CSR Report

Corporate Social Responsibility Report 2017
2016年度社会・事業・環境活動についての報告書



COOP
MIYAGI

CONTENTS



01 ご挨拶

02 みやぎ生協とは、コープ東北とは

04 〈東日本大震災〉

協同の力で 希望の明日へ

震災復興と社会貢献



食品安全・安心

第1章 食品の安全・安心の取り組み



14 商品の安全対策室

15 商品検査センター

16 顔とくらしの見える産直「めぐみ野」

17 めぐみ野 商品

18 「めぐみ野」学習と普及活動

19 「めぐみ野」のつながり

メンバー活動



第2章 メンバー活動

20 メンバー(組合員)活動

21 食育・子育て支援

22 こ~ぶくらしの助け合いの会

23 平和について考える活動



事業活動

第3章 事業活動

24 店舗

26 共同購入、インターネット事業、サービス事業

27 CO-OP共済、こ~ぶ福祉会

28 学校部・(株)宮城県学校用品協会

29 コンプライアンスの徹底、広報活動



社会貢献活動

第4章 社会貢献活動

30 くらしと家計の相談室

31 コープフードバンク

32 福祉団体・施設への支援

33 行政・他団体との協力・募金活動・災害支援、国際社会への支援



環境活動

第5章 環境活動

34 環境理念・環境方針

35 低炭素社会の構築に向けて、再生可能エネルギーの普及拡大

36 廃棄物の削減・再資源化

37 メンバーの環境活動

38 商品事業における環境配慮、環境マネジメント

39 環境監査

【みやぎ生協のめざすもの】

わたしたちは、協同の力で、 人間らしくらしを創造し、 平和で持続可能な社会を実現します。

東日本大震災から6年が経過しました。この間ご支援頂いた、生産者、メンバー、企業・機関・団体の皆様へ深く感謝申し上げます。今後も被災者支援、コミュニティ支援を継続・発展させるほか、震災を教訓とした「防災・減災」の普及に努めて参ります。

みやぎ生協は、東京電力福島第一原子力発電所の惨事を繰り返さないために、東北地方において、風力発電所や太陽光発電所などの再生可能エネルギー事業へ積極的に出資参画をしています。また、メンバー向けの再生可能エネルギー中心の電力販売事業も開始する予定です。

2016年度は、新店を1店舗開店したほか、新しい事業形態にも挑戦しました。地域生協初のレストラン「ビストロラウンジ コステリア」を青葉区一番町に出店し、産直ブランド「めぐみ野」食材や東北の食産業活性化を目指す「古今東北」ブランド商品を使った料理で、メンバーに喜ばれています。また、大手コンビニエンスストアチェーン「ファミリーマート」と協定を結び、2017年4月21日に七ヶ宿町に1号店を開店しました。

2016年11月末に「協同組合において共通の利益を形にするという思想と実施」が、ユネスコ無形文化遺産へ登録されました。私たちは、社会的事業を行う協同組合の一員として、メンバーのくらしを守り、地域社会からの信頼に応えられるよう、社会・事業・環境活動を推進して参ります。

最後に、この「2017年度CSR報告書」は、2016年度にみやぎ生協が取り組んだ社会的責任を負うべき課題や、東日本大震災の復興支援に関する取り組みについてまとめています。

是非ご一読頂き、みやぎ生協の活動へのご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

みやぎ生活協同組合 理事長

宮本 弘



協同組合の定義・価値

1995年9月に開催された国際協同組合同盟(ICA)100周年記念大会で採択した21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す協同組合原則。

◎定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

◎価値

協同組合は、自助・自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

みやぎ生協とは

生活協同組合とは

協同組合は、メンバー（組合員）の共通の願いやニーズを満たすためのメンバーの助け合い（相互扶助）の組織です。19世紀の半ば、イギリスの労働者が自分たちの暮らしを守るために作った「ロッチャデール公正先駆者組合」が協同組合の始まり。現在、日本では2,100万人を超える方が生協の組合員です。

民主的な運営

メンバーの中から選出された総代による「総代会」で、毎年の方針などが決定されます。日常的には総代会で選出された理事（会）や、その付託を受けた常勤理事会が、総代会の決定に基づき事業を執行します。また、監事が理事（会）の業務執行を監査するなど、生協の民主的な運営を確かなものにするために多様な仕組みを設けています。

1982年に創立

1982年、宮城県学校生協（1952年設立）と宮城県民生協（1970年設立）が合併して現在のみやぎ生協が誕生しました。当時は大型生協同士の合併ということで全国的にも注目されました。



2生協の合併調印式

2016年度決算概要

2016年度の供給高は、店舗部でバスカードの廃止による約11億円の減少などの要因で前年・予算と共に下回り、経常剰余金は5.7億円、当期剰余金は1.3億円となりました。しかし、出資金は前年度末より約23億円増えて278億円となり、当期末処分剰余金は3.5億円となりましたので、出資配当を行います。

加入率は全国一

みやぎ生協に加入しているメンバー数は73万世帯、宮城県内世帯数73.0%で、全国で最も高い加入率を維持しています。

| | |
|----------------|-----------|
| メンバー数 (組合員) | 72万3,122人 |
| はん数 | 4万3,823はん |
| はん メンバー数 | 13万4,893人 |

（2017年3月20日現在）

◆みやぎ生協のHPはこちら <http://www.miagi.coop/>

◆復興支援に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/support/shien/>



供給高（売上高）

1,033億54百万円

前年比98.4%／店舗718億円、
共同購入277億円、サービス16億円、
エネルギー20億円、生産部2億円

出資金（資本金）

278億13百万円

職員数

6,994人

レギュラー職員1,003人、エリア職員251人、嘱託職員398人、
パートナー職員3,865人、アルバイト職員1,477人
※関連団体への出向者含む

主な事業

生鮮食品、食品、日用雑貨、衣料品などの供給事業、
サービス事業、受託共済事業、
生活相談・家計再生支援貸付事業

店舗48店舗 共同購入11センター コンビニ1店舗

※仙台中央センターは2017年6月に稼働開始。

生産部

ミートセンター、フィッシュセンター、
豆腐揚げ工場

サービス・保障事業

サービスセンター、住まいのセンター、
ブリーカー案内センター、共済センター

エネルギー事業部(灯油・ガス)

子会社

(株)宮城県学校用品協会、(株)コープトラベル東北、(株)コープ総合サービス、
(株)コープエステート、(株)スクランムファイブ、(株)コープ松島、
(株)東北協同事業開発、(株)コープコンビニエンス

主な加盟団体

日本生活協同組合連合会、宮城県生活協同組合連合会、
生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合

コープ東北とは

東北6県の生協との連帯

コープ東北サンネット事業連合

事業活動と取り組み

コープ東北は、東北の生協が商品仕入れを統一化、共同で行うことにより、厳しい競争環境の中でも、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在、店舗事業、共同購入事業、食品の安全、物流・システムの分野で統一・共同が進んでいます。



1995年2月23日の創立総会の様子

設立から今まで

1990年6月、いわて生協・生協共立社・みやぎ生協が、今後の事業連帯のあり方について話し合いを開始し、1995年5月、コープ東北サンネット事業連合を設立しました。その後、複数の生協が加盟し、会員数は6県9生協に広がりました。東北6県の生協が連帯することにより、各会員生協の収益改善に大きく貢献しています。



2016年度決算概要

2016年度の加盟生協合計供給高は2,382億円、合計組合員数は177万人となっています。また、コープ東北が取り扱う商品の供給高は1,081億円（前年比97.8%）になりました。



◆コープ東北のHPはこちら <http://www.tohoku.coop/>

〈東日本大震災〉

協同の力で 希望の明日へ

震災復興と 社会貢献



1

被災された方々を支えて—— ボランティアセンター

みやぎ生協は東日本大震災直後の2011年5月から、被災された方々に寄り添う活動に取り組んでいます。ふれあい喫茶、生活再建懇談会、被災地訪問、手作り商品カタログの発行など様々な取り組みを行い、これまでのボランティア活動は3,600回を超え、延べ2万6,000人を超えるメンバーがボランティアとして活動しました。

ふれあい喫茶

仮設住宅集会所や店舗のメンバー集会室など、県内23ヶ所(2017年3月現在)で、一緒にお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ活動を継続し、孤立化防止やコミュニティづくりにつながっています。この活動から発展し、2016年7月からは誰もが気軽に参加できる場「ふれあいカフェ」も開始して、地域のつながりづくりの場として役割を發揮しています。

行政書士無料相談会

宮城県行政書士会と連携し、行政書士無料相談会を開催しています。2016年度は、定期開催2店舗のほか、ふれあい喫茶会場での開催で計34回開催しました。買い物などのついでに立ち寄り、気軽に相談できる場として、延べ57人が相談に訪れました。

サポーターへの支援

ふれあい喫茶などの活動に取り組むサポーターの交流会を4回開催し、206人が参加しました。仮設住宅から災害公営住宅への転居などで変化する被災地の現状を学び、この

間の活動の成果や悩みを交流して、今後の活動を考える機会となりました。

手作り商品カタログ・ 県政広報展示室企画展への出展

生きがいやコミュニティづくり、生活再建のために手作り品の製作に取り組む方々を紹介し、商品購入を呼びかける『新“復興応援”手作り商品カタログ』を、NPO法人「応援のしっぽ」と協同で1年間に2回発行しました。これまでよりページ数を増やし、Vol.6では31団体86品目を、Vol.7では30団体85品目を掲載しました。また、2016年5月23日～6月24日、県政広報展示室(宮城県庁18階)の企画展で、手作り商品カタログ掲載商品や被災者支援の取り組みを紹介するパネルなどの展示を行いました。



新“復興応援”手作り商品カタログVol.7



県政広報展示室企画展の様子

◆復興支援に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyagi.coop/support/shien/>



1.名取市美田園仮設住宅でのふれあい喫茶 2.3.11を忘れない取り組み(高森店) 3.みんなが主役!地域の居場所づくり(交流会)



被災地訪問企画

宮城の被災地域を訪れる企画を17回開催し、588人が参加しました。地域ごとの復興速度の違いや現状を自身の目で確かめ、今後の支援や防災、次世代へ語り継ぐ大切さを考える機会となりました。また、福島の沿岸部や商品の産地で現状を学ぶ企画を2回開催し、51人が参加しました。訪問後は、こ～ぶ委員会などで現状を伝え、支援を呼びかけました。



南三陸町への親子企画では、当時、子どもたちが避難した経路を辿りました。

被災者支援落語公演

「みんなで大笑いしたいね」という声から始まって6年目を迎えた落語公演。2016年度は、気仙沼と石巻で4回実施し、314人が参加しました。年々参加者も増え、蛇田店では立ち見の方も出るほどでした。



春風亭柳之助さんの公演
(石巻アイビアホール)

他団体やNPOとの連携

仮設住宅でのふれあい喫茶や、災害公営住宅でのコミュニティづくり支援など、被災者支援の様々な活動を、行政・社協・

他団体・NPOなどの団体と連携してすすめました。

災害公営住宅でのコミュニティづくり支援では、メンバーと職員、独立行政法人都市再生機構(UR)、行政、社協などが連携しました。南三陸町志津川東住宅の自治会立ち上げ総会で、焼き出し訓練を兼ねた芋煮づくりを行い、住民同士のつながりを深めました。

みんなが主役!地域の居場所づくり(交流会)

「みんなが主役!地域の居場所づくり」として、ふれあい喫茶やふれあいカフェ、子育てひろばなど様々な活動に関わる方々を対象に、地域の中での居場所づくりの大切さを学び、取り組みを広げる交流会を開催し、125人が参加しました。

3.11を忘れない取り組み

「支援と備えを見直そう～3.11を忘れない取り組み」として、手作り商品の販売、ローリングストックや備蓄に便利な商品の紹介・試食、語り部のお話を聞くなどの企画に取り組みました。また、震災を伝えるツールとして、被災地の変化とみやぎ生協の活動をまとめた説明付きパネルを作成し展示しました。



説明付きパネル
「震災からまもなく6年～被災地の変化とみやぎ生協の活動～」の展示



1



2

地域産業・生産者への復興支援

古今東北

コンセプト

東北の生協として、震災復興そして地域振興の役割をはたすために、新ブランド「古今東北」を立ち上げました。東北の食の「これまで」と「これから」を紹介するブランドです。

古今東北がお届けするのは、東北6県の彼方此方から集めた選りすぐりの食材や加工品です。地元で愛されてきた伝統的な食文化を再発見し、多彩な食文化が出会うことで生まれる新たな食の楽しみを提案します。東北地方の魅力を日本全国に向けて、いざれは世界の国々に向けて発信していきます。

ロゴマークは、安心・安全で優れた商品であることを保証する「太鼓判」をモチーフにしました。



(株)東北協同事業開発

みやぎ生協の子会社として、「食のみやぎ復興ネットワーク」の思いと事業を継承し、東北の産業振興と地場産品の販路拡大のために2015年4月に設立しました。

東北地方の資源を活用した古今東北ブランド商品の開発と全国への発信を通じて、豊かな地域づくりと継続的な被災地振興へつなげます。

2015年11月19日に38アイテムでスタートした古今東北ブランドは2016年度には約100アイテムまで拡大しました。2017年度もさらなる商品の開発を目指します。

生協以外の小売・楽天市場での販売

福島県いわき市のスーパーで、2016年4月から販売して頂いています。その後、店舗と取り扱い商品を増やし、9月からは、古今東北としてのコーナーで商品展開を強めています。

またインターネット販売を通じた販路拡大を目指し、2016年11月28日に「楽天市場」に古今東北ショップを立ち上げました。初めは14アイテムでのスタートでしたが、お酒などのアイテムを拡充し、2017年1月現在で27アイテムまで拡大しています。2017年度の初めには冷蔵品・冷凍品の取り扱いも開始しています。

夏・冬ギフトの開始

2015年夏からギフト展開を始めました。夏ギフト・冬ギフトそれぞれで約1,400点の注文があり、「乾麺セット」や「三陸海鮮セット」などが好評でした。2017年度の夏には、詰め合わせ自由のギフト商品も開始します。楽天市場での提案、全国生協での取り扱いも検討していきます。



古今東北の「いつでもギフト」セット

◆復興支援に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyagi.coop/support/shien/>



3

4

1.岩手県の佐々長醸造(三陸のだし香るつゆ) 2.大崎市の株一ノ蔵(ささのくら生原酒) 3.石巻市の「浜人(はまんと)」(わかめ、昆布) 4.仙台駅ビル「S-PAL」内催事場に出店

商品紹介

古今東北商品は現在約100アイテム(2017年3月現在)。東北の震災復興と地域振興に賛同する人々の思い、そして時をこえて親しまれるおいしさを伝えています。食のみやぎネットワークの取り組みから生まれた商品、被災した産地の復興を応援する商品、東北産食材のおいしさを発信する商品の開発と販売を通じて、東北地方を応援しています。

●気仙沼産 しつとりびんちょうピリ辛ツナ缶

日本近海で漁獲され、気仙沼港に水揚げされたびんちょうまぐろを使用した、こだわりのピリ辛ツナ缶です。津波と大規模な火災で多くの水産加工場が被災し、一時は事業再開断念が検討される中、「気仙沼の水産加工の火を灯し続ける」という決意でいち早く再建しました。サラダのトッピングやパスタ、お酒やビールのおつまみにも最適です。



気仙沼市の株ミヤカンの皆さん



●宮城県産海苔使用 パリッと寿司はね

宮城県産のスサビノリを使用した焼のりです。東日本大震災で海苔の生産者が3分の2に減少したあとも、「より良いものを製造しよう」という熱い思いで海苔づくりを続けています。その海苔を、同じく津波被害を受けた福島県相馬市の工場で丁寧に焼き上げました。おにぎりや巻物などに使いやすい、しっかりとした海苔質の商品です。



福島県相馬市の株サンエイ海苔の皆さん



●宮城県南三陸星農場産 しゃきっと小松菜

南三陸の恵みである牡蠣殻と上質な稻のもみ殻を蒔くことで、栽培に適した土壤づくりをすすめています。その土壤でできた小松菜は、葉も茎も大きく育つ割には柔らかな食感も特徴で、旨味、糖度、栄養分がたっぷりつまっています。生産者の皆様が丹精込めて育てた、南三陸の栄養豊富な小松菜を、ぜひご賞味ください。



南三陸町の星達哉さん



食のみやぎ復興ネットワーク

食のみやぎ復興ネットワークとは？

東日本大震災で多大な被害を受けた宮城県内の農業・漁業関係者や食品関連産業者が、互いに励まし合いながら地域復興を目指すために、2011年7月に結成されました。生産者への支援活動や、地域資源を活用した商品活動による地域支援を行っています。





事業を通した復興支援

店舗での復興支援

移動店舗 せいきょう便

移動店舗「せいきょう便」は、買い物に困っている方への商品供給を目的として、東日本大震災で被災した地域の応急仮設住宅を中心に2011年から運行を始めました。生鮮品から雑貨品の生活必需品を中心に約600種類を品揃えし、週6日営業しています。応急仮設住宅の縮小を受けて復興住宅や一般住宅へ販売先の変更をすすめ、2016年には、仙台市内での運行も始めました。今後も営業地域の拡大をすすめています。

東北元気価格

東北の4生協(いわて生協、生協共立社、みやぎ生協、コープふくしま)のメンバーのくらしを継続的にサポートするために、2013年度よりスタートしました。2016年度も、通常価格より10~30%値下げした商品を加工肉、ディリー、加工食品、生活関連の各コーナーで約3,700品目展開しました。2017年度は、3ヶ月サイクルにして、利用頻度の高い商品を展開していきます。



買い物代行サービス こ～ぶふれあい便

「こ～ぶふれあい便」は週2回、店舗で扱っている商品を自宅までお届けする買い物代行サービスです。震災前は高齢者や身体の不自由な方などを対象としていましたが、震災後には被災地域を中心に買い物の不便を感じている方への支援策として、沿岸地域にも対応しています。子育て中や妊婦の方、高齢者だけの世帯など、ニーズは多様化しており、「こ～ぶふれあい便」の良さ・利便性をお知らせして利用者の拡大を進めています。

さらに高齢者の「安否確認」で県内各市町村と連携し、「高齢者見守り活動」として推進しています。「こ～ぶふれあい便」の対象店舗は、2016年度から高森店、荒井店が加わり、以下の17店舗となりました。

「ふれあい便」サービス実施店舗

西多賀店、黒松店、桜ヶ丘店、富沢店、幸町店、国見ヶ丘店、柳生店、明石台店、亘理店、塩釜杉の入店、高森店、愛子店、名取西店、八木山店、蛇田店、鶴ヶ谷店、荒井店

※配達エリアはお店によって異なります。



ふれあい便スタッフ

◆「ふれあい便」の配達エリアに関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/support/fureainibin/>



3



4

1.移動店舗せいきょう便(石巻) 2.せいきょう便でお買い物(石巻) 3.「がんばろうふくしま!農産品応援ボックス」生産者のみなさん 4.共同購入ステーション

共同購入の復興支援サービス

農産品応援ボックス

2011年6月からスタートした「がんばろう ふくしま! 農産品応援ボックス」「果物応援ボックス」は、2016年度までの6年間で24万点ご利用頂きました。組合員から寄せられた産地への応援メッセージを生産者へ渡し、大変に喜ばれています。また生産者から「メンバーさんへ感謝の気持ちを形にしたい」との提案があり、7月1週に500円(通常価格650円)の感謝価格でご案内したところ、1週間で3,902点(通常週の5倍)と多くの利用がありました。7年目を迎えるにあたり、ボックス内のアイテム数やセット内容を変更するなど、新たな取り組みを産地側と協議しながら今後も継続していきます。



農産品応援ボックス

共同購入ステーション

共同購入で注文した商品を直接受け取りに来る「受取はん」として、メンバーが配送料無料で利用できる共同購入ステーションは、石巻の生協文化会館アイトピア、共同購入石巻センター、蛇田店、石巻渡波店、東松島市新東名集会所、共同購入気仙沼センターの6ヶ所にあり、369人のメンバーにご登録頂いています。ステーションを利用しているメンバーは、職員との会話や近所の方とのふれあいを楽しみに足を運んでくださっています。

復興支援サービス

東日本大震災で被災した方々を対象に、個人宅配の配達手数料を通常240円のところ96円で利用できる「復興支援サービス」。2016年度も2,520人の新たな申し込みを受け付け、14,489人が利用しています。サービスの終了期間を「復興が実現するまで」に延長し、多くのメンバーに喜んで頂いています。今後も支援を継続し、協同組合としての役割を一層発揮していきます。

ご利用対象者を広げ、被災者に寄り添う
復興支援サービス

適用条件 ●1. 応急仮設住宅・民間賃貸借り上げ住宅・災害公営住宅にお住まいの方。●2. 大規模半壊以上の被災証明をお持ちの方。●3. お住まいが「震災特需賃借区域」になり、避難されてきた方。

※銀行「被災者支援サービス」をご利用されている組合さんは、全員「復興支援サービス」に名称変更(自動切替)してサービスを継続いたします。※現在、個人宅配ご利用の方でも上記に該当される方は新規受付の対象となりますので、センター配達担当者にお申し出をお願いします。

通常手数料 **240円** → **1回 96円** (本体)

96円 (本体)



サービス事業による支援

保険証券の「ベルマーク」を集めて被災した学校を支援

cope東北保険センターの職員が自動車保険・火災保険の証書に付いている「ベルマーク」を、契約手続きをしながら集め、被災した学校に届けています。2016年度は南三陸町立志津川小学校と、入谷小学校にお届けし、これまでに被災した9校に寄贈しました。



津波記憶石プロジェクト

サービスセンターは「復興応援しあわせのクローバーのたね募金」を実施し、供給したシロツメクサの代金の一部を「津波記憶石建立資金」として寄付しました。岩手県大船渡市、宮城県女川町に次いで3基目の津波記憶石が青森県八戸市に建立されました。



福島の子ども保養プロジェクト

(株)copeトラベル東北は「福島の子ども保養プロジェクト」(通称コヨット)運営のお手伝いをしました。2016年度は6回実施され、232人が遠刈田温泉で楽しく過ごしました。福島の子どもたちは満面の笑みでした。

学校部・(株)宮城県学校用品協会

震災後に始めた被災した子どもたち・学校など

みやぎの子どもたちに夢と希望を!

提携住宅メーカー(ミサワホーム株式会社)の協力で、南極観測隊スタッフによる「南極クラス」を県内の学校24校で開催しました。「未知の世界」である南極での活動を伝えたり、南極の氷の気泡がはじける音を聞いたりして、未来を担う子どもたちに夢と希望を届けました。



南極観測隊による南極クラス

中学校でアンサンブルコンサート

県内の中学校3校で、フルート・チェロ・ピアノによるバロックアンサンブルコンサートを開催しました。クラシックから流行りの曲までを演奏し、生徒の皆さんに生演奏の音色に聞き入っていました。また、演奏に合わせて歌ったりして、笑顔あふれる楽しい時間を提供しました。



中学校でのバロックアンサンブルコンサート



1.青森県八戸市に建立された津波記憶石 2.福島の子ども保養プロジェクト(蔵王町) 3.親野智可等先生の子育て支援講演会 4.みやぎ生協プレゼンツ「89ers冠試合」

みやぎの子どもたちを元気に!

への支援活動を発展させて継続しています。

他県の学校用品会社からの図書館寄贈

福岡県、徳島県、福井県、富山県、兵庫県、石川県、三重県の各教育用品会社から、宮城県の学校12校へ図書館図書の寄贈支援を頂きました。宮城県学校用品協会が代理として、各学校へ図書館図書を届け、贈呈式を行いました。



徳島県の学校用品協会とNPOから亘理町荒浜中学校へ寄贈

凧つくり・凧あげ教室

大崎市の小学校で、凧つくり・凧あげ教室を開催しました。夢や希望など子ども達のそれぞれの思いを凧に書いて、高く揚げました。



大崎市の凧あげ教室

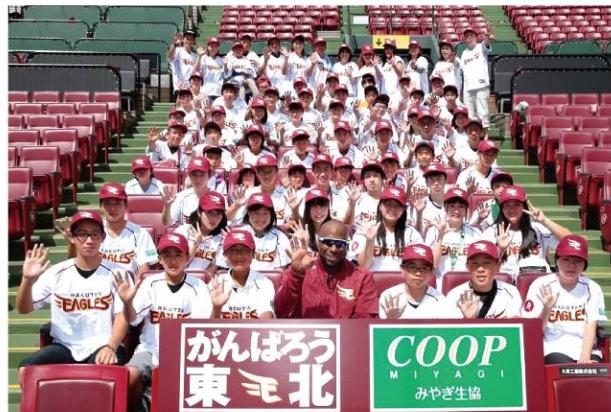
子育て支援講演会

こ～ぷ家庭教育センターでは、2016年6月29日に元フジテレビアナウンサーで貴乃花部屋女将の花田景子さん、2016年10月13日と14日に親野智可等先生を迎えて、「子育て支援講演会」を開催しました。

被災者支援事業への協賛

東北楽天 「がんばろう東北 被災者招待」

みやぎ生協は、2011年5月から東北楽天「がんばろう東北」支援活動「被災者招待事業」に協賛しています。2016年は計6試合開催し、宮城県・福島県・岩手県から延べ852人（小学校3校、中学校7校、4つのスポーツ少年団）を招待しました。招待者にはユニフォームをプレゼントし、選手との写真撮影や試合後の選手とのふれあいイベントなどを開催して、子どもたちは笑顔いっぱいの一日となりました。



東北楽天ゴールデンイーグルス「被災者招待試合」

ベガルタ仙台「復興支援サッカーキャラバン」

みやぎ生協は、ベガルタ仙台が小学校で開催する授業型「サッカーキャラバン」に協賛し、2016年は40回で3,767人が参加しました。また、被災者招待企画「宮城東北ドリームプロジェクト」には、2ndステージホームゲーム9試合で招待者約900人分のお弁当、飲料を提供しました。



被災者を支える協同の輪

みやぎ生協プレゼンツ 仙台89ers冠試合

冠試合を2016年11月5日(CO・OP共済プレゼンツ)と2017年1月28日(共同購入プレゼンツ)の2回開催・協賛しました。1月28日は、仙台89ersの活動方針のひとつ「青少年育成への支援」の企画で、子どもたち890人の夢を集め、779人を招待する「キッズドリームDAY」となりました。両日とも先着プレゼント、観戦招待、ミニゲームイベント、記念撮影などの企画や、みやぎ生協としてブースも出店し、大変喜ばれました。

地域社会の一員として

『将来の“自然災害”に備える ～こうべ＆みやぎからのメッセージ～』発行

阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災から5年を経て、あらためて減災・防災について考え、取り組むきっかけになることを願い、コープこうべと協力して2016年3月に発行しました。

将来の自然災害に備え
「いのちを守る、その後を生き抜く知恵」として活用頂くために44,000部を発行しました。全国の生協やこ～ぶ委員へ配布したほか、「3.11を忘れない取り組み」などでお知らせしました。ぜひ多くの方に活用頂きたいと思います。



◆冊子はみやぎ生協ホームページでもダウンロードできます。<http://www.miagi.coop/support/shien/message/>

復興支援活動の広告

被災地訪問や、震災で被害を受けた生産者支援のためのイベントや企画、被災した子どもたちに笑顔を届ける様々な企画の広報を展開しました。

また、みやぎ生協とメンバーが展開してきた様々な支援活動をお知らせするために、そして今後も被災地、被災者への支援を継続する意思を表明するために、昨年に引き続き、3月11日の河北新報に全面広告を掲載しました。私たちは被災地が本当の復興を遂げるまで今後も様々な支援活動を継続します。



2017年3月11日河北新報の広告

行政や各種団体とともに

震災から6年、行政や各種団体が主催する「復興支援事業」や地域の各種イベントなどに資金面で協賛し、復興支援の一翼を担いました。また、復興や被災地の現状をテーマにした行政や各種出版物にも寄稿し、復興への取り組みなどを広くお知らせしました。



3



4

1.楽天の被災者招待試合 2.ベガルタ仙台「復興支援サッカーキャラバン」 3.ベガルタ仙台のクリアファイルとボールの贈呈 4.3.11東日本大震災を忘れないつどい

3.11 東日本大震災を忘れない 東日本大震災を風化させず、地域のライフラインとしての役割を果たすために

東日本大震災 学習・資料室

「東日本大震災を忘れない、風化させない、伝え続ける」をテーマに、2013年3月5日、文化会館ウィズ内にオープンしました。民間でこのような施設は他になく、2016年までの4年間の入場者数は約6,000人に達しました。2016年6月には、震災当時の写真の掲示を増やし、震災復興のシンボルである「古今東北」ブランド商品の展示を作るなど、大きくリニューアルしました。どなたでもご覧頂けますので、是非一度ご来場下さい。



学習・資料室外観



学習・資料室の様子

「被災地は今」の情報発信

「くらしと帰郷」「住宅問題」「被災自治体職員の心のケア」「ボランティア」「被災した子どもたちの現状」など、様々な角度から被災地を取り組んで、被災地では今何が問題なのかを全国の生協に発信しています。震災から6年が経過し、震災に関する報道は目に見えて少なくなっています。被災地の現実を風化させないためにも今後も発信し続けます。

東日本大震災を忘れないつどい

東日本大震災発災後、6年を経過した被災者・被災地の現状や課題を認識するとともに、みやぎ生協が行っている被災者支援、被災地復興支援の取り組みを継続することを確認するために、毎年3月11日に開催しています。東日本大震災でお亡くなり(行方不明)になられた生協職員をはじめとする方々を追悼し、これからも震災を忘れず、風化させず、大規模自然災害発生時の生協の役割を継承し続けます。



地震が発生した午後2時46分には、全員で黙祷を挙げました。

第1章



食品の 安全・安心の 取り組み

コープ東北商品検査センター

1

食品の安全を確保する仕組み

みやぎ生協 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協は、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバーの願いの実現を目指します。
そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

1. 取引先、生産者、メンバーとコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバーへの供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。
(1) 食品の安全管理システムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します。
(2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
(3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。
2. 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。
3. メンバーと産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広めます。
4. 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。
5. 食に関する学習・体験の活動にメンバーや他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。

この食品の安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

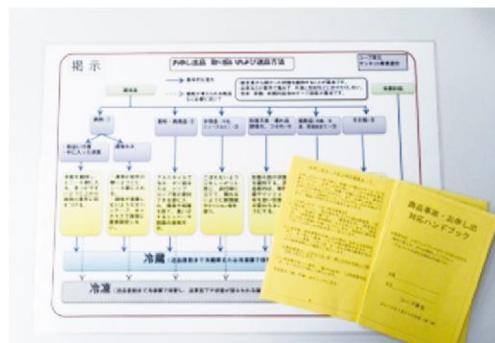
2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

商品の安全対策室

重大商品事故の兆候管理システム

重大商品事故につながりかねない兆候を見逃さないため、メンバーからのお申し出に対する判断や対応に誤りは無いか、事故の原因解明と再発防止策がしっかりと行われているなど、最後までしっかりと監視を行っています。

2016年度も、重篤な人体被害などの重大商品事故に発展した案件はありませんでした。



「お申し出」に関するマニュアル

◆食品の安全に関する詳細はこちらからご覧いただけます。<http://www.miagi.coop/products/safety/>



1.コープ東北商品検査センター 2.理化学検査① 3.理化学検査② 4.微生物検査 5.店舗衛生点検 6.放射性物質検査 7.工場点検



「餃子事件を教訓とする月間」の取り組み

「手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことを見直すため、毎年2月度に、全職員が事件の内容と食品の安全を確保するためのルールを学習しています。

食品の安全マネジメントシステム

- ①各部署が、「食品の安全・安心に関する基本方針」に基づいた目標と、それを実現するための教育・実施・検証の計画を立て、毎月進捗管理をしています。
- ②内部監査や外部検査の結果もふまえ、取り組みの有効性を評価し、目標が達成できない場合には、その原因を明らかにして対策を補強していくことで改善を積み上げています。

2016年度の改善例

- ①店舗加工品や共同購入チラシでのアレルゲンや産地などの表示間違い件数を、昨年よりも削減しました。
- ②共同購入では、メンバーからのご意見やお申し出を記録する際の不備件数を昨年よりも削減しました。
- ③メンバーから質問やお申出を頂いてから、生協が回答を作成するまでの期間の短縮に取り組み、昨年よりも大きく改善しました。



食品安全・安心のためのマニュアルなど

商品検査センター

放射性物質検査

2016年度は526検体の検査を行いました。検査結果は全て「検出せず」でした。検査結果は、店頭掲示や共同購入の納品書、ホームページで報告しています。

放射能 摂取量調査の手順

2011年度から日本生協連と協力して実施しています。
2016年度は30世帯のメンバーに協力をいただきました。

- 測定の結果、全世帯ともに検出はありませんでした。
- 1.各家庭で食事をもう一食余分に作ります。
 - 2.一食分ずつフリージングバッグに入れ冷凍庫に保管します。
 - 3.各家庭から2日分の食事とアンケート、献立調査票、食事の写真が届きます。
 - 4.食事をミキサーで粉碎し均一に混ぜて、そのうち2リットルを検査試料とします。
 - 5.細かくした検体を専用の容器にできるだけ隙間なく詰めます。
 - 6.検体を詰めた容器を検出器にセットします。1検体の測定時間は約14時間です。
 - 7.パソコン上で操作して、モニターに表示されたデータから、物質の種類と濃度を解析します。

1)微生物検査

| 累計 | 総検体数 | 共同購入配達商品 | 店舗調理加工商品 | 店舗一般メーカー商品(テナント含む) | COOP商品・生産部生産品 | 取扱事前検査など |
|-----|--------|----------|----------|--------------------|---------------|----------|
| 検体数 | 11,545 | 2,847 | 2,874 | 2,111 | 961 | 2,752 |

検査結果は、店舗やメーカーの衛生管理向上のために活用しました。

2)残留農薬検査

| 累計 | 総検体数 | めぐみ野 野菜 | めぐみ野米 | 一般品 |
|-----|------|---------|-------|-----|
| 検体数 | 472 | 421 | 35 | 16 |

検査結果は、めぐみ野の栽培方法などの指導に役立てました。

3) COOP商品の原材料の確認

| 項目 | 遺伝子組み換え | 品種判別 | 産地判別 |
|-------|---------|------|------|
| 検査品目数 | 4 | 8 | 3 |

15品目の検査を行い、全て適切に使用されていることを確認しました。

◆食品の安全に関する詳細はこちらからご覧いただけます。<http://www.miagi.coop/products/safety/>



顔とくらしの見える産直

「めぐみ野」

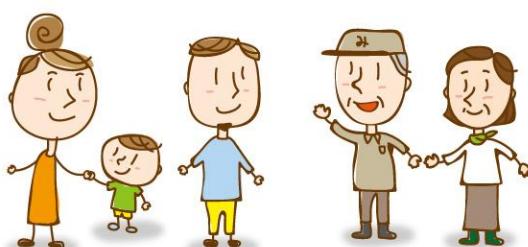
ふるさとの豊かな自然が授けてくれる恵み

生産者の方々のたゆまぬ努力によりもたらされる恵み

おいしくて安全な食卓に支えられた健やかな毎日という恵み

そして、作る人と食べる人がお互いを思いやる心の恵み

47年前にみやぎ生協の前身「宮城県民生協」の組合員と生産者の方々が「顔とくらしの見える産直」を開始しました。生産者と消費者の食に対する思いを直接結ぶことが、「産消直結」の取り組みです。



事業と運動の基本的な立場

みやぎ生協の「めぐみ野」の事業と運動は、生産者と消費者の共通の願いを実現するために、次のような基本的な立場で提携活動を進めています。

- ①健全な日本型食生活の確立と食料の安全性を高めます。
- ②食料自給率の向上をめざし、宮城県と日本の農・水・畜産業を守り、発展させる国民合意の運動を進めます。
- ③産消提携活動に積極的に取り組むことを通じて、宮城県と日本の経済と文化の発展、自然環境の保全に寄与します。

顔とくらしの見える産直 **めぐみ野**

3つの基準

- ①だれ(生産者)がどこ(産地)で作ったかがわかること。
- ②どのように作ったか(栽培・飼育)がわかること。
- ③生産者とみやぎ生協のメンバーの交流があること。

数字で見る「めぐみ野」

「めぐみ野」商品の取り扱い **50品目**

シャキシャキえのき(8月)、宮城県産大豆きぬ・もめん(8月)、宮城県産豆乳入寄せとうふ(8月)、宮城県産あぶらげ(8月)、宮城県志津川湾産塩銀鮭(甘口)(1月)、味付け子持ちめかぶ(3月)が、新規めぐみ野商品に加わりました。

2016年度供給高 **61億円**

みやぎ生協と「産消提携に関する基本協定書」を
締結している団体(「宮城県産消提携推進協議会」) **47団体**

「めぐみ野旬菜市場」設置店舗 **41店舗**

今まで… これからも。/
今まで… これからも。

みやぎ生協 産直の出発点

1970年、組合員からの「安全でおいしい肉が食べた」という声を受け、みやぎ生協の前身である宮城県民生協と角田市農協(当時)で、「鶏卵」「豚肉」の産直を始めたのが出発点です。生産者は安全で安心なものを食べたいという声に応えようと努力を惜しみませんでした。しかし、経営的には厳しかったため、組合員は「生産者の生活が成り立つ価格」での供給を提案しました。お互いの立場、環境を学び理解しあうこと。これが「顔とくらしの見える産直」の原点で、今でも受け継がれています。





3



4

1.めぐみ野なし生産地見学(内定者交流会) 2.めぐみ野角田・丸森産牛乳の牛舎 3.西多賀店のめぐみ野旬菜市場 4.荒井店のめぐみ野旬菜市場

めぐみ野 商品

新商品

●豆腐

いずれも、宮城県大郷町、JAあさひな大郷地区(14組合)で生産された「ミヤギシロメ」大豆を使用しています。

①めぐみ野 宮城県産大豆きぬ・もめん 350g

豆乳濃度を一般より高めに設定した高温の豆乳を固めて、大豆の風味が感じられる昔ながらの生のお豆腐です。

②めぐみ野 宮城県産豆乳入寄せとうふ

豆乳を高温で凝固させたあと、すばやく丁寧に手盛りした豆腐の周りに、熱い豆乳を注ぎ入れ、大豆の旨味と風味を閉じ込めています。



●めぐみ野 宮城県産あぶらげ 2枚入

生地を通常より厚めの11mm程度にし、食べ応えのある油揚げです。また、豆乳濃度も4.0~5.0%と高めに設定することで、より大豆の風味を感じられます。宮城県登米市、JAみやぎ登米豊里支店(9組合)で生産された「タチナガハ」大豆を使用しています。



●めぐみ野 シャキシャキえのき

東北一番の生産量を誇る加美町で生産され、シャキシャキの食感と強い甘みが特徴です。活力のある種菌と徹底した栽培管理によって、通常より短い40~45日間の栽培でえのきの軸を均等に太く揃えることを可能にし、より「シャキシャキ」とした食感を味わうことができます。JA加美よつば中新田えのき茸生産組合で生産しています。



めぐみ野 旬菜市場

「安全でおいしい野菜を食べたい」というみやぎ生協のメンバーの願いと、「その願いに応えたい」という生産者の思いから生まれた「めぐみ野 旬菜市場」。現在41店舗に設置し、県内22の生産者グループが旬の野菜の中から自分たちの目で選んだ自信作を店舗に届けています。

めぐみ野 季節商品

春 「めぐみ野」レタス

●取り扱い時期:5~6月いっぱい
気温が上がる前の早朝に収穫している、鮮度にこだわった玉の大きいレタスです。農薬と化学肥料の使用は宮城県の一般栽培の半分以下です。



夏 「めぐみ野」気仙沼産 生かつおたたき

●取り扱い時期:7~9月ころ
気仙沼市はかつおの水揚げ量が日本一で、品質も良いです。生かつおをそのまま高温で一気に焼くことで、皮と身の脂肪分が溶け、極上の甘味となります。



秋 「めぐみ野」なし

●取り扱い時期:8月下旬~10月下旬
栽培中の農薬・化学肥料を宮城県の一般栽培の2/3以下に抑えています。また、樹上で熟度をあげてから収穫を行うことで、甘さを増しています。



冬 「めぐみ野」志津川湾産 生かき

●取り扱い時期:11~2月ころ
宮城県内でも有数のかきの産地、南三陸町志津川湾は植物プランクトンが豊富に含まれ、磯の香り豊かなかきが育ちます。





「めぐみ野」学習と普及活動

「めぐみ野」産地見学・交流会

産地見学・体験会を80回開催し、延べ2,339人が参加しました。女性同士のくらしを含めた交流・体験の機会を増やしました。「わが家の味噌作り体験」「めぐみ野」田んぼの学校など、親子で参加・交流・体験できる企画に取り組み、延べ257人の親子が参加しました。

「めぐみ野」米バケツ稻栽培コンテスト

「めぐみ野」米バケツ稻を、21店舗で689家族に配付し、10月にはバケツ稻栽培コンテストを実施しました。栽培日誌には日々の観察が書かれ、苗からお米になるまで、そして味わうことまでを体験しました。



「めぐみ野」バケツ稻栽培コンテスト

「めぐみ野」学習会・学習塾

「めぐみ野」学習塾を43回開催し、946人が参加しました。こへーとのつどいでの「めぐみ野」の学習は63回実施し、1,615人が参加して、「めぐみ野」品の特徴などへ理解と共感が広がりました。

「めぐみ野」クッキング教室

生産者・お取引先様が講師をする料理教室を11回実施し、160人が参加しました。農協・漁協の女性講師とメンバーには、「女性同士の交流で楽しく調理できる」と大変好評でした。



「めぐみ野」クッキング教室

TPP参加反対運動を幅広く

2016年6月21日に緊急学習報告会「『今TPPを問う』持続可能な地域社会・地域づくりとTPP」に23人が参加しました。また、2016年12月1日には「大丈夫?TPPで食の安全はどうなるの!」学習会を開催し、90人が参加しました。

「めぐみ野」品の普及活動

店頭普及活動を毎月15日の「いいコープの日」に実施し、毎月第一土曜日には、「めぐみ野米」の普及活動を行いました。また、全店舗と5エリアでは秋まつりを開催しました。各エリアで計247回行った普及活動には2,282人が参加し、メンバーに「めぐみ野」品の安全・安心とおいしさをアピールして利用を広げました。



「めぐみ野」米の普及活動



3



4

1.めぐみ野米 田植え体験 2.田んぼの生き物調査 3.大豆の種まき作業 4.JAみやぎ仙南(角田)稲刈り体験

「めぐみ野」のつながり

第35回宮城県めぐみ野交流集会

2016年12月7日、仙台国際センターで「第35回宮城県めぐみ野交流集会」を開催し、メンバー・生産者・産消提携団体・お取引先様・生協職員、1,322人が参加しました。この集会は「めぐみ野」活動の意義と成果を確認し、産消提携への理解を広げるために、毎年開催しています。



「めぐみ野」交流集会の午後の部では、10の分科会で交流しました。

「めぐみ野」牛乳タオル1本運動

「めぐみ野」牛乳生産者を応援する「タオル1本運動」は、店舗にポスターを引き続き掲示して訴えたことなどから1万382本のタオルが寄せられ、生産者にお渡しすることができました。



鳴子上原酪農組合にタオル贈呈

「めぐみ野」ミニ交流

「めぐみ野」ミニ交流会は10回255人が参加して実施しました(台風で南光台店開催中止)。「生産者と直接話ができる良かった。生産者は私たちのために安全な生産を続けていることが分かった。生産者を応援しようと思った。」との感想がありました。

全国地産地消推進協議会 会長賞受賞

全国地産地消推進協議会と一般社団法人都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)が主催する「平成28年度地産地消等優良活動表彰」で、みやぎ生協と生産者・産地の取り組みが「全国地産地消推進協議会会長賞」を受賞しました。この表彰は、全国各地域でそれぞれの立地条件を活かした地産地消の取り組みや国産食品の利用拡大等の取り組みを募集し、地域振興部門、交流促進部門、消費拡大部門の3部門から、優れた活動に表彰するものです。今回の表彰は、2016年から設置された「消費拡大部門」で、生産者と消費者の交流を軸とした「めぐみ野」の活動と震災復興・地域振興を支援する「古今東北」の取り組みが評価されたものです。

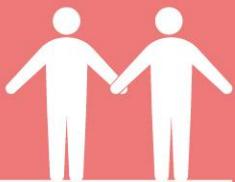
「めぐみ野」若手生産者交流会

2016年12月に、初めてとなる「めぐみ野」若手生産者の交流会を開催し、果物、野菜、大豆、水産、畜産の生産や加工に関わる若手の皆さんが集まりました。同じ「めぐみ野」の生産に関わる若手同士が交流し、「生産する品目は違っても、宮城県の一次産業を盛り上げていきたい」という思いを語り合いました。



「めぐみ野」若手生産者交流会

第2章



メンバー活動



1

自主的でいきいきとしたメンバー活動を進めています

メンバー(組合員)活動

楽しくてためになるこ～ぶ委員会活動

生協の様々な取り組みや暮らしに関わることを学習したり、興味・関心のあることを自分たちで企画したりして、「楽しくてためになるこ～ぶ委員会」の活動をしています。2016年度は「めぐみ野」品や「コープ商品」、「古今東北」商品について知って食べて、楽しく活動しました。



楽しく委員会の準備

こ～ぶのつどいで楽しいひととき

みやぎ生協の良さを知って頂き、地域でのふれあいや絆を深めあう場として、初夏と秋に宮城県内各地域で、こ～ぶ委員会による「こ～ぶのつどい」を開催しました。徒歩でも参加できるように、生協の集会室だけでなく、地域の集会所などでも実施しました。「めぐみ野」品や「コープ商品」、「古今東北」商品を試食しながら、地域の支え合いの大切さを確認し、初夏は災害時に備

えた「くらしの品のローリングストック(循環備蓄)」、秋は「食品の表示法」について学びました。

《こ～ぶ委員会、こ～ぶのつどい、はん会》

| 項目 | 2015年度 | 2016年度 |
|-----------------------------|--------|--------|
| こ～ぶ 委員会の数 | 333 | 331 |
| 委員会 委員人数(人) | 2,688 | 2,607 |
| こ～ぶ の つどい 初夏のこ～ぶのつどい参加人数(人) | 11,387 | 10,519 |
| 秋のこ～ぶのつどい参加人数(人) | 11,030 | 10,433 |
| はん会 紫陽花はん会開催数(回) | 5,362 | 5,421 |
| 秋桜はん会開催数(回) | 5,509 | 5,284 |

サークル活動・カルチャー活動

あつまる・つながることに価値觀をおいたコミュニティの活動として「サークル活動」「カルチャー活動」を展開しています。「サークル」はくらしや趣味を通してわいわいする活動、「カルチャー」は生協に登録した講師のもとで趣味や文化活動を楽しむ活動です。約6,550人のメンバーが集会室で活動しています。



カルチャー「和みヨガMeguメグ」(柳生店)

◆メンバー活動の詳細は[こちらからご覧になれます。](http://www.miagi.coop/member/) <http://www.miagi.coop/member/>



2



3

1.「こ～ぶのつどい」おいしい試食タイム 2.親子ニコニコクッキング 3.「5 A DAY」買い物ゲーム



食育・子育て支援

5ADAY食育体験ツアー

小学生が食育インストラクターや店の人に話を聞き、「買い物ゲーム」や「サラダ作り」で野菜や果物を直に見て、触って、味わい、野菜と果物を食べる大切さを学習しました。2016年度は県内23の小学校で61回実施し、1,915人の児童が参加しました。また、学校単位ではなく地域で募集する親子開催は、市名坂店で子ども16人、利府店で親子30人が参加しました。

たべる・たいせつ料理教室

「めぐみ野」米を中心とした日本型食生活の調理実習企画「たべる・たいせつ日本型食生活料理教室」を、文化会館ウイズ、名取西店、蛇田店、気仙沼メンバー集会室、白石店、加賀野店の6ヶ所で開催し、メンバー108人が参加しました。ごはんに発酵食品と豆・豆製品を加えた、健康寿命の延伸を目指すバランスの良い食事メニューの実習講座で、日本型食生活や食生活提案についても学びました。



たべる・たいせつ料理教室(蛇田店)

メンバー向けの商品学習会

みやぎ生協では、お取引先様の企業などにご協力頂き、メンバーを対象にした産地見学や工場・施設見学、生協で扱っている商品の学習会などを実施しています。

2016年度見学会にご協力頂いたお取引先様(順不同・敬称略)

- (株)ナリス化粧品 ●(株)キンビール仙台工場 ●(株)ホクト㈱ ●(株)志田金 ●(株)一ノ瀬本社蔵 ●新港リサイクル㈱本社工場 ●(株)だい久製麺 ●雪印メグミルク㈱ ●成田食品㈱ ●伊藤ハムディイリー㈱ ●(株)マルハニチロリテールサービス ●(有)伊豆沼農産 ●JAいしのまき ●JA加美よつば ●JAみどりの ●JAみやぎ仙南 ●大谷果樹組合 ●角田丸森産直牛乳生産組合 ●和雄ヒーラーの農場 ●(株)石巻青果 ●(株)加工連 ●(株)カネ吉田商店 ●(株)パールライス宮城 ●(株)ベジランド佐藤 ●加美農業高校 ●気仙沼ほてい㈱ ●鳴子上原酪農組合 ●みちのくミルク㈱ ●宮城県漁協志津川支所 ●宮城県食肉公社

2016年度学習会にご協力頂いたお取引先様(順不同・敬称略)

- 三菱食品㈱ ●(株)UCC上島珈琲㈱ ●森永製菓㈱ ●雪印メグミルク㈱ ●(株)明治 ●(株)カゴメ㈱ ●大塚製薬㈱ ●(株)ユキ食品㈱ ●フジコ㈱ ●太子食品工業㈱ ●石井食品㈱ ●(株)マルハニチロリテールサービス ●日清オイリオグループ㈱ ●(株)ナリス化粧品 ●アサヒ飲料㈱ ●伊那食品工業㈱ ●オタフクソース㈱ ●ブルドックソース㈱ ●キッコーマン食品㈱ ●ハウス食品㈱ ●エスビー食品㈱ ●(株)クラブコスマチックス ●スリーエムジャパン㈱ ●マルハニチロ㈱ ●(株)ホクト㈱ ●(株)マクブランディング ●(株)伊藤園 ●(株)ニチレイフーズ ●カタギ食品㈱ ●白鶴酒造㈱ ●サンスター㈱ ●カルピス㈱ ●(株)クレハ ●イトアンド㈱ ●(株)ヤマダフーズ ●(株)ミツカン ●キユーピー㈱ ●キリンビールマーケティング㈱ ●大塚食品㈱ ●(株)日本香堂 ●(株)日専連ライフサービス ●東北電力(株)石巻営業所 ●味の素ゼネラルフーズ㈱ ●(株)コモ ●協同乳業㈱ ●ヤマキ㈱ ●(株)タカキベーカリー ●井村屋㈱ ●(株)ロッテアイス ●メルシャン㈱ ●宮城中央ヤクルト販売㈱ ●(株)アイケイ ●成田食品㈱ ●片岡物産㈱ ●(株)タケイ ●(株)コジット ●ボッカサッポロフード&ビバレッジ㈱ ●(株)きみち製麺 ●(株)喜作園 ●JAあさひな ●JAいしのまき ●JA加美よつば ●JAみどりの ●JAみやぎ仙南 ●JAみやぎ登米 ●JF大分 上入津支店 ●大谷果樹組合 ●角田丸森産直牛乳生産組合 ●(株)石巻青果 ●(株)海祥 ●(株)加工連 ●(株)カネ吉田商店 ●(株)パールライス宮城 ●(株)志田金 ●(株)仙台水産 ●十三漁業協同組合 ●鳴子上原酪農組合 ●(株)リマハム㈱ ●宮城県漁協志津川支所 ●森永乳業㈱ ●仙都魚類㈱ ●(有)伊豆沼農産 ●(株)大槻ファーム ●岩沼洋菜生産組合 ●気仙沼ほてい㈱ ●古川生産者グループ ●三倉産業㈱ ●(株)風見

◆5ADAY食育体験ツアー開催の様子はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/shokuiku/5aday/>



COOPママのサポートクッキング・ おはなしキッチン

子育てひろばで食育についてワンポイントをお伝えするCOOPママのサポートクッキングを48回実施しました。絵本を通して想像(創造)する力を育み、食に興味を持つきっかけとなる「おはなしキッチン」を4回実施し、親子68人が参加しました。



東松島子育てひろば「ぱぱたん」で子育てひろばスタッフが作った
「はらべこあおむし」とCOOPママ

子育てひろば

0歳～未就園児とご家族を対象に、ほっこり一息つくゆとりを持ち子育てを楽しいと思ってもらう場を31会場で提供しました。親子4,165人の参加があり、延べ1,229人のボランティアスタッフが地域の子育てを見守りました。楽しい企画も実施しました。

子育てふれんずニュース

子育て中の編集委員が、楽しくてためになる旬な情報を年4回ニュースにして、子育てふれんずに登録している2,080人に届けました。日々の暮らしに役立つ登録者限定の学習会「ママ塾」は6回開催し、84人が参加しました。託児をしてゆっくり勉強できると好評です。

こ～ぶくらしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」という気持ちで、活動会員と利用会員が家事援助を中心に助け合い活動に取り組んでいます。活動時間の合計は、30,319時間になりました。また今年度から、相談窓口を「みやぎ生協くらしの相談ダイヤル」に変更し、くらし全般の相談ができるようになりました。

くらしの相談ダイヤルには、地域包括支援センターやケアマネジャー、高齢者の方々から、通院介助や掃除などの相談が来ています。こ～ぶくらしの助け合いの会では、今後も地域で安心してくらし続けられるよう、活動を広げていきます。



活動会員と利用会員

こ～ぶくらしの助け合いとは

メンバーどうしの助け合い活動として1985年に設立されました。会員は利用会員・活動会員・賛助会員があります。活動は高齢者だけではなく、障がいや病気の方、また若い子育て家庭も対象に支援が行われています。

会員になるためにはみやぎ生協のメンバーであること、入会時に1,000円(翌年以降は年会費1,000円)が必要です。

会員数:活動会員557人、利用会員1,425人、賛助会員444人(2017年3月20日現在)

◆福祉に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/fukushi/>



3

1.子育てひろば「ひまわり」ミニニうんどうかい(気仙沼) 2.おはなしキッチン(太子堂店) 3.「ピースアクション in ヒロシマ平和行動」参加者 4.映画「アオギリにたくして」上映会



4

平和について考える活動

ヒロシマ平和行動

2016年8月4~6日に行われた「ヒロシマ平和行動」に、親子2組、高校生1人を派遣しました。その報告会を8月20日に開催し、37人が参加しました。被爆者の体験を学習した参加者は、被爆の実相などを紹介し、「若い世代が被爆者の思いを引き継いで行かなければ」と報告しました。また、クイズや合唱などを通じて、平和への思いをひとつにしました。



ヒロシマ平和行動参加者の報告会

沖縄戦跡・基地めぐり

現在の沖縄における諸問題やこれからの平和について考えることを目的とした2016年3月29~31日の「沖縄戦跡・基地めぐり」に親子4組、学生3人を派遣しました。その報告会を4月9日に開催し、39人が参加しました。地上戦の傷跡や今なお残る米軍基地など、沖縄の現状を見て聞いて感じたことを模造紙にまとめ、平和の大切さを訴えました。



沖縄戦跡基地めぐり参加者の懇親会

◆平和とくらしに関する詳細は[こちらからご覧になれます。](http://www.miyagi.coop/member/heiwa/)<http://www.miyagi.coop/member/heiwa/>

平和の大切さを伝える活動

「見て聴いて、心で平和を感じよう」ということで、2016年度は映画「アオギリにたくして」の上映会を5回、クリスマスの時期に平和を考える癒しの企画「渡辺祥子さん朗読会」を3回開催しました。また、愛らしい子どもを描くことで平和の大切さを訴えた「いわさきちひろ」の複製画展を3店舗で開催し、平和の尊さを考える機会をつくりました。



渡辺祥子さん朗読会

憲法九条を守る活動

「憲法九条を守り生かす宮城のつどい2016」が2016年11月7日に仙台国際センターで開催され、1,600人が参加しました。講演では東京大学・東北大学名誉教授の樋口陽一氏が「日本国憲法の中で一番の要は、すべて国民は個人として尊重されること」と訴え、会場から大きな拍手が起きました。



憲法9条を守り生かす宮城のつどい2016



第3章

事業活動



1

暮らしに役立つ事業

店舗

買い物を楽しく快適に 人に優しいお店に

探しやすい売場、選びやすい商品陳列、見やすい案内表示に努め、買い物を楽しい時間にします。全店に「サービス・ケア・アテンダント（高齢者やお身体の不自由な方、買い物で困っている全ての方々へのサービス）」の資格者を配置し、人にやさしい店舗運営に努めています。また、メンバーからの「レジ待ち時間を短縮して欲しい」という要望に応え、2016年度は幸町店、西多賀店、八幡町店、新寺店、荒井店に「お支払いセルフフレジ」を導入しました。今後もメンバーの利便性と買い物の快適性の向上を図っていきます。



改装した西多賀店内

既存店の改装

2016年度は幸町店と西多賀店の2店舗を改装しました。店舗の外装と内装を一新し、売場の商品とともに新しいスーパー・マーケットへの進化を感じられるデザインを追求しました。地域性とライフスタイルに合わせた鮮度感あふれる新しい売場構成で、「めぐみ野」商品をはじめとする安全・安心の産直品や、おいしさ・買い物の楽しさを追求した魅力ある売場と商品を提供します。改装によって生まれ変わった心地よい空間の中で買い物をお楽しみ頂けます。



改装した幸町店



1.荒井店オープン 2.お支払いセルフレジ 3.店内のイートインコーナー(幸町店) 4.ファミリーマート・七ヶ宿町との3者協定締結式 5.成城石井コーナー(幸町店)



荒井店オープン

仙台市若林区の荒井地区に新たに設置された大規模商業施設「クロスモール荒井」の核店舗として、9月15日にみやぎ生協荒井店がオープンしました。荒井店では、顔とくらしの見える産直「めぐみ野」商品、東北の食を応援する「古今東北」ブランド商品、コープ商品を品揃えするとともに、健康関連の商材や即食商品や季節商品を充実させ、「お支払セルフレジ」を導入してより短時間で会計ができるお店となっています。また、災害対応の取り組みとして「かまどベンチ」と「トイレベンチ」を設置しています。この器具は、通常は店頭のベンチとして活用し、災害時などにはベンチを「かまど」「トイレ」として利用できます。

新ミイカ発行

電子マネー「メンバーコード付MiiCA(ミイカ)」を11月1日から導入しました。従来のMiiCAは、ポイントを付けるためにメンバーカードも出さなければなりませんでしたが、「メンバーコード付MiiCA」は1枚でポイントが付く便利なカードです。さらに1,000円チャージごとに3ポイント、300円支払い時にコープポイントがプラス1ポイント付与されるのでとてもお得なカードです。



メンバーコード付MiiCA

FamilyMart+COOP七ヶ宿店

株式会社ファミリーマートと提携し、みやぎ生協初のコンビニエンス店舗(24時間営業)、ファミリーマート+COOP七ヶ宿店(刈田郡)を2017年4月21日にオープンしました。店舗は七ヶ宿町が計画している「賑わい拠点エリア」の一画に出店し、コインランドリーも併設しています。さらに、同敷地内に町営バス停留所も設置され、地域住民の方々が来店しやすい環境を整えました。売場は約80坪で通常のファミリーマート(50坪)よりひとまわり大きいサイズで、店内には気軽に休憩できるイートインコーナー(22席)を設置しました。通常のファミリーマートの取り扱い商品に加え、生協の生鮮品・めぐみ野商品・コープ商品も販売します。社会的な付加価値のある店舗として普段の生活を支え、七ヶ宿町に「お店があって良かった」と感じられる、地元密着型の店舗を目指します。



ファミリーマート+COOP七ヶ宿店外観



共同購入

2017年仙台中央センター開設

1992年に気仙沼センターを開設して以来25年ぶりに、新しい共同購入配送センターを2017年6月に開設します。仙台市内の配達を行っている仙台北・東・南・西の4センターの中心エリアに開設することで効率的な運営が推進され、今後の継続的な事業成長を目指します。

高齢者の見守り活動

配達時にいつもと違う、気になる状況、異変に気づいた場合に、センターへ連絡し、センターから行政窓口への連絡をして安否を確認する見守り活動に取り組んでいます。2016年度は22件、取り組みを開始した2012年10月からは、合計で114件の異変の連絡と対応がありました。引き続き地域に寄り添った取り組みとして継続していきます。

個配メールサービス

個人宅配利用者の配達時の在宅状況を、離れて暮らす家族の登録されたメールアドレスへお知らせする登録無料のサービスを継続します。

夕食宅配サービス

調理や買い物が困難な方に平日の夕食をお届けするサービスです。専属の栄養士が考えた日替わり献立で、1食からお届けが可能。また、県内全市町村と「高齢者見守り活動」の協定を結んでいます。ご利用メンバーやご家族の方々が喜んで頂ける夕食と安心を提供できるよう取り組んでいきます。



インターネット事業

あっと @コープ

共同購入や店舗、ネットショップなど、メンバーの買い物を便利に楽しくする生協のインターネットサービスです。メールで店のチラシを受け取ったり、生協での買い物履歴が家計簿アプリで見ることができたりと、普段の買い物を応援します。

かんたん生協タブレット

音声検索、地図、動画などの便利な機能もついて、月額1,800円と格安な「かんたん生協タブレット」を販売しています。共同購入の注文アプリや、生協で購入した商品を自動で登録するアプリなどがセットアップされています。

コープネットショップ

店舗で販売している寿司やオードブルなどを、簡単にインターネットで注文できます。また全国のうまいもの、名産品をご自宅やご指定の住所へ宅配でお届けします。

サービス事業

地域生協初レストランオープン

昨年、レストラン「ビストロラウンジ Costeria」を開業しました。みやぎ生協の子会社(株)コープ総合サービスが運営し、みやぎ生協の「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」商品と震災で被害を受けた産地や工場の販路拡大を目指しているブランド「古今東北」商品を使用した食事やお酒を提供しています。気軽に入れるような明るい雰囲気で、ステージや音響設備もあり結婚式の二次会やイベントなどにご利用頂けます。



3



4

1.共同購入センター 2.夕食宅配サービス 3.ビストロラウンジ コステリア店内 4.CO・OP共済 ライフプランアドバイザー

環境・省エネリフォームの取組

住まいのセンターでは、自然エネルギーによる発電とCO₂排出量の削減で環境保全に貢献するため、断熱ガラスと太陽光発電の普及拡大に取り組みました。コープの快適リフォーム情報誌『Reフレッシュ』で毎月紹介したほか、断熱ガラスのサンプルを使って熱伝導を体験できる無料相談会を延べ53回、太陽光発電の無料相談会を52回、店舗で実施しました。断熱ガラスを利用したメンバーからは、「以前より暖房の設定温度が低くても暖かい」という声を頂きました。



宅配水(アクアクララみやぎ生協)

おいしいお水アクアクララ水の宅配事業を行っています。回収して再利用できるリターナブルボトルで、環境資源にも配慮し、ボトルサイズは12リットルと7リットルの2種類用意しています。現在、県内1万700世帯にご利用頂いています。

ガスあんしん見守りサービス

お年寄りの一人暮らしなどで、一定期間まったくガスが使用されていない場合に、メールやFAXでご家族や友人の方に自動的に通知する無料登録サービスです。コープガスを安心して利用頂くサービスとして継続します。

コープトラベル東北

(株)コープトラベル東北は、みやぎ生協、いわて生協、生協共立社の出資で1994年に旅行事業を開始しました。生協の組合員の宿泊手配やお取引先様の社員旅行等、旅行業務全般を取り扱っています。生産者と消費者が繋がっている生協だから

らこそできる産直交流事業の企画は、参加者から好評です。JTBや近畿日本ツーリストのパック旅行も取り扱っています。

CO・OP共済

ライフプランニング活動

「ライフプランアドバイザー」の資格を取得したメンバーが、「社会保障」や「生命保険等のしくみ」、「住宅ローン」、「税金に関する事」など、より良い暮らしを実現するために学習会を開催しています。2016年度は、学習会や講演会に6,114人のメンバーが参加し、「今までわからなかった事が整理でき、わかりやすく楽しい学習会でした」と大好評でした。

コーすけの普及活動

幅広い年代に愛されているコープ共済キャラクターのコーすけが、今日もどこかでお知らせ活動をしています。コーすけが参加する楽しいイベントを通して、CO・OP共済の輪を広げていきます。



幼稚園でのコーすけイベント

こーぶ福祉社会

こーぶ福祉社会の介護事業

みやぎ生協の福祉理念を高齢者の介護保険事業で実践するために、1999年に社会福祉法人こーぶ福祉会を設立し、今年で18年目を迎えます。こーぶ福祉会は、地域の高齢者が在宅で暮らし続けられる介護の拠点として桜ヶ丘、石巻、緑ヶ丘の3ヶ所の「こへぶのお家」で、デイサービス、訪問介護、訪問看護、居宅



介護、定期巡回訪問介護・看護サービスを提供しています。また、みやぎ生協桜ヶ丘店内で、仙台市委託事業である桜ヶ丘地域包括支援センターを介護の相談窓口として運営しています。介護専門職など206人の職員のほか、209人の後援会会員と延べ約2,300人のボランティアが、こーぶ福祉社会の活動を支えています。桜ヶ丘、緑ヶ丘では、介護の基本に則り、デイサービスに通い、過ごすことで利用者の自立力を引き出すケアに取り組みました。また機能訓練指導員(理学訓練士、作業療法士)を配属しました。

こーぶ福祉社会の被災者支援の福祉サロン

「こ~ぶのお家いしのまき」で被災者支援の「福祉サロン」を10回開催し、ボランティアを含めて延べ253人が参加しました。2011年の開始以来、102回、延べ約2,480人の方が参加しました。また、社会福祉法人協同福祉社会(奈良県)、大和郡山ロータリークラブの方々の支援で、全国金魚すくい大会石巻予選大会と本選招待、鹿児島のNPO「唐芋ワールド」による被災者支援のサツマイモ配布企画に協力しました。

こ~ぶなごみの杜桜ヶ丘を開設

高齢者が安心して地域で暮らすための新たなサービスとして、ショートステイ(宿泊)併設サービス付き高齢者向け住宅「こ~ぶなごみの杜桜ヶ丘」を仙台市青葉区水の森に開設しました。「こ~ぶのお家桜ヶ丘」の定期巡回訪問介護・看護(24時間)サービスと合わせて、地域でずっと暮らしていくための条件を整備しました。

コープこやぎの保育園を開設

2017年4月に、仙台市認可の地域型保育事業として、事業所内保育園「コープこやぎの保育園」(定員32人)を仙台市宮城野区苦竹の共同購入仙台中央センター脇に新設しました。地域の子育て世帯と子どもを持つ職員を支援します。

学校部・(株)宮城県学校用品協会

学校部・(株)宮城県学校用品協会

(株)宮城県学校用品協会はみやぎ生協の子会社で、県内の学校への教材販売や家庭学習教材・学習教室事業を取り扱っています。

学校・先生方に役立つ情報提供

学校部では、みやぎ生協で行っている環境・食・福祉・ユニセフなどの活動から、学校での学習素材として使えるものを『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』にまとめて掲載し、県内全小・中各学校へ届けています。



※DVD貸し出し、資料提供・頒布、生協店舗や取引先見学、協事業所職場体験等の受入など

職場体験・見学の受け入れ

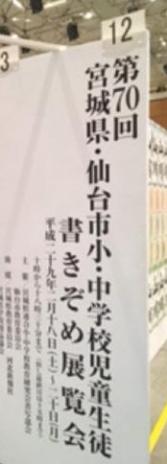
職場体験実習・見学は、店舗を中心に共同購入・学校部・ディサービスセンター・産直コースなどを設定しています。2016年度は職場体験・実習職場見学(173校)、食育体験店舗ツアー(23校)などの受け入れを行いました。

学校教材販売事業

(株)宮城県学校用品協会は、日常的に教育現場の先生方のご意見を聴き取り、県内全ての学校へ教材教具、備品、体育着などを販売しています。また、各小中学校教科研究会の編集、発行している出版物・図書の編集、販売支援をしており、代表的なものとして、小中書写研究会の書きぞめ手本の作成・印刷、書きぞめ展覧会の後援や仙台市小学校教科研究会が編集・発行している夏休みドリル帳があります。今年の書きぞめ展覧会には、2万2,000人ほどが来場しました。



4



5



6

1.こ～ぶなごみの杜 外観 2.全国金魚すくい大会石巻予選(こ～ぶのお家いしのまき) 3.コープこやぎの保育園外観 4.コープアフタースクール太子堂校 5.第70回書きぞめ展覧会 6.教育研究活動助成金交付式

株宮城県学校用品協会の教育助成制度

(株)宮城県学校用品協会は、宮城県内の学校教育の進展に寄与することを目的に、学校用品事業を通して生まれた収益の一部から小中学校の教育実践活動へ「教育助成」を行っています。学校研究活動助成や教育講演会・講習会の講師紹介・派遣など、様々な教育研究活動や授業に役立てられています。

こ～ぶ家庭教育センター

幼児～中学生までの家庭学習教材販売、学習教室、英会話教室事業を通して、子どもたちの学力向上、家庭学習の充実を支援しています。また、学童保育事業として、こ～ぶアフタースクールとパソコンで勉強できる「こ～ぶ松陰塾」を、2015年度に開校した太子堂校に次いで荒井地区にも開校しました。

学校用品ネットショップ

(株)宮城県学校用品協会のネットショップ「学校用品.net」では、学校指定体育着や水泳用品、学校で使用する用品(書きぞめ用品、とびなわ、リコーダーなど)をパソコンやスマートフォンから購入できます。 <https://www.gakkouyouhin.net/>

事業を支える…

コンプライアンスの徹底

公正な取引の徹底

「公正な取引の徹底」は、みやぎ生協の事業活動にとって最も重要であり、お取引先様に対する最大の責務です。私的独占の禁止、公正な取引の確保に関する法律(独占禁止法)の「不公正な取引方法の禁止」及び「優越的地位の乱用」に抵触するような商取引は決して行いません。このようなことが起こらないように、お取引先様と商談する商務には「公正な取引促進」に関する教育を行っています。

外部通報制度

お取引先様とみやぎ生協のホットラインを設け、生協の役職員に何か不適切な問題があった場合に通報頂く仕組みを持っています。通報があった場合は、必要な調査などを十分行い、通報者に納得頂けるよう対応します。

各種法令の遵守

みやぎ生協が事業活動を行う上で、遵守しなければならない法令は多岐にわたります。2013年より、事業活動に関する法令の改定を把握する仕組みを導入し、適切な対応を行うよう努めています。

お取引先様とのパートナーシップ

毎年6月、「みやぎ生協の方針説明会」を開催しています。これは、お取引先様にみやぎ生協の次年度の方針を理解頂き、より良いパートナーシップを形成していく一助とする目的です。1982年の設立以来続いている、2016年は891社、1,400人の方々にご参加頂きました。

広報活動

こやぎのみやぎちゃん

2015年度から、みやぎ生協のオリジナルキャラクターとして「こやぎのみやぎちゃん」を起用しています。優しい女の子で、相棒の文鳥「はこぶんちょう」と一緒に、みやぎ生協のイベントなどで活躍しています。無料通信アプリ「LINE」のスタンプも販売中です。

メディア広報

2015～2016年度はテレビ・ラジオのコーナーと、TVCMを複数放送しました。事業活動や商品紹介だけでなく、メンバー活動や社会貢献活動のお知らせなど、生協としての地域活動をアピールしています。

第4章



社会貢献活動



1

地域社会のセーフティネットとして…

くらしと家計の相談室

くらしと家計の相談室(生活相談・家計再生支援貸付事業)では、くらしや家計、借金問題など、お金に関する様々なご相談をお受けしています。解決に融資が適当な場合には、他制度優先を原則に、生協からの融資も行います。



相談の様子

みやぎ生協くらしと家計の相談室
相談からご融資までをサポート!
022-292-5015

仙台市宮城野区榴岡2-3-15 花本ビル8階 受付時間:10:00~17:00(日・祝日を除く)

くらしの相談ダイヤル

2016年度から、家計の困りごとだけではなく、くらし全般の相談を受け付ける専用ダイヤルを開設しました。「こ～ぶくらしの助け合いの会」の窓口を兼ねながら、みやぎ生協の活動、サービスのご紹介など、くらしに関わる様々な困りごとに対処しています。

022-292-5016

受付時間:10:00~16:00
(日・祝日を除く)

相談・貸付の状況

| | |
|----------|-----------|
| 電話相談受付数 | 918件 |
| 面談相談者数 | 440人 |
| 延べ面談相談件数 | 823件 |
| 貸付支援件数 | 154件 |
| 貸付支援金額 | 1億3,097万円 |

(2017年3月20日現在)

相談事例 Case

カードのリボ払いでの債務!!

クレジットカードの「リボ払い」の相談が増えています。毎月5万円使うのに支払いは1万円。残り4万円は?ショッピング残高がいつの間にか100万円の債務になっていることも。ご自身のカード利用限度枠や毎月の返済額を意識して、無駄な金利をかけずに賢く使いましょう。今より低い金利での借り換えのご提案もしています。

こ～ぶくらしサポートガイドブック

メンバーが困ったときに役に立つ、みやぎ生協の様々な活動やサービスを一冊の冊子にまとめたガイドブックです。保存版としてお手元において頂くほか、みやぎ生協ホームページからもダウンロードできます。



◆『こ～ぶくらしサポートガイドブック』のダウンロードはこちらから。http://www.miagi.coop/about/introduction/support_guide/index.html



1.七十七銀行様からの災害用備蓄品寄贈 2.コープフードバンク・フォーラム2016 3.フードライブ(愛子店) 4.コープフードバンク法人サポーター企業様一覧

2017年3月21日現在、法人サポーター企業様114社（五十音順）

- あいおいニッセイ同和損害保険
- (株)東北本部
- アクリクラ(株)
- アフラック仙台総合支社
- (株)あらた仙台支店
- (株)イーネット
- イカリ消毒仙台(株)
- イーグル
- 砂金石油ガス(株)
- (株)一条工務店宮城
- (株)伊藤園東北地区量販店課
- 内池醸造(株)
- エムカイワ(株)
- 江崎グリコ(株)
- (株)エスティーファイブ
- SBSゼンソウ(株)
- 大塚食品(株)
- (株)大沼製菓
- オリックス自動車(株)
- 勝山企業(株)
- 加藤産業(株)仙台支店
- (株)神奈川クリーニング
- 共栄火災海上保険(株)
- 東北支店仙台支社
- 空調技工㈱
- (株)グラビアジャパン
- コカ・コーラボトラーズジャパン(株)
- 国分東北(株)
- 国分フードクリエイト(株)
- 東北支社
- (株)コスモジャパン
- (株)コム
- 有限責任事業組合
- コムワーク・プロジェクト
- 小山産業(株)
- (株)サイコー
- 焼賣良工業
- 佐川印刷(株)
- (株)サークルエー
- (株)佐元工務店
- 三協青果(株)
- (株)サン・ベンディング東北
- (株)シーテック仙台
- (株)七十七銀行
- (株)清水
- (株)新出光東京支店
- (株)伸電
- JAかごしま茶葉(株)
- JTB印刷(株)
- スマリ工業(株)
- (株)清月記
- セルティックエンジニアリング(株)
- (株)仙水
- 仙台国際ホテル(株)
- (株)仙台水産
- 南仙台トクエ
- (株)仙台放送
- (株)仙台丸水配達
- (株)有仙南瓦工業
- (株)ゼンケン
- 損害保険ジャパン日本興亜(株)
- (株)第一エージェンシー
- (株)だい久製麺
- (株)タイハク
- 株高浜
- 株多田紙工
- 株タンク
- 株デリーフーズ東北支店
- 株電通東日本
- 東京海上日動火災保険(株)
- 株東北アドバンス
- 東通インテグレート(株)
- 東北共栄建設(株)
- 株東流社
- 株富樫工業
- 株トキワ
- 凸版印刷(株)東日本事業本部
- 西松建設(株)北日本支社
- 株日專連ライフサービス
- 株日本アクセス東北支社
- 日本酒類販売株式会社
- 日本生活協同組合連合会
- 日本労働者協同組合連合会
- センター事業団東北事業本部
- ネスレ日本(株)北日本支社
- 株ノダ
- バナニック産機システムズ
- 株東北支店
- 株パールライス宮城
- 株ヒューテックノオリン
- 東北支店
- 株ビーブロ
- 檜野左官店
- 株フクシ
- 株フクダ・アンド・パートナーズ
- 富士ゼロックス宮城(株)
- (株)プランニング・オフィス社
- (株)ホクトコーポレーション
- (株)ボイス仙台支店
- ボーキ佐藤(株)仙台支店
- ボーキ佐藤燃料(株)
- (株)ボップゼンターザくら
- 松印松浦青果(株)
- マリッジパートナーズ(株)
- (株)マルタマ
- 丸大堀内(株)
- マルニ食品(株)
- 三菱食品(株)東北支社
- (株)みなとモーター
- (株)宮原
- みやぎ県南医療生活協同組合
- 公益財団法人宮城厚生協会
- 更生保護法人宮城東華会
- (株)宮城読売IS
- 明治安田生命保険相互会社
- 東北法人部法人営業部
- メフレ(株)
- (株)守屋青果物商店
- (株)やない製麵
- (株)リブネット東北
- (株)流通サービス
- 六興電気(株)東北支店



マスコットキャラクター
「フ～助」



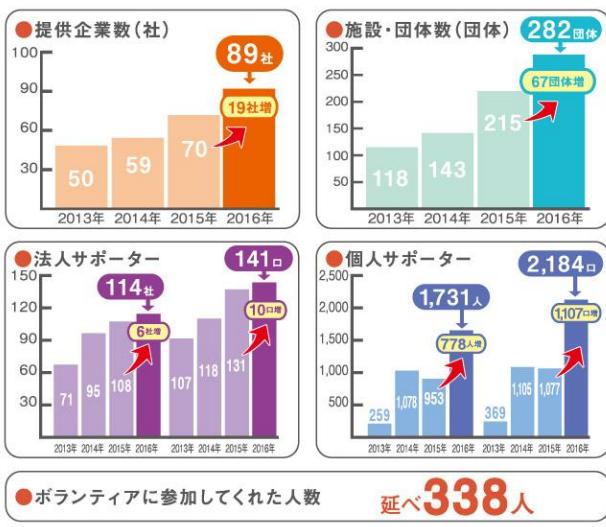
コープフードバンクがめざすもの

お取引様の食品企業等から余剰食品の無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織へ無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

コープフードバンクの1年間の活動



※寄贈量と提供量の差については、賞味期限が長いもの等、倉庫に在庫しております。期限を見ながら計画的に出荷しております。



災害用備蓄品の有効活用の輪が広がりました。

東日本大震災から5年が経過した2016年度は、各団体等にある災害用備蓄品の買い替え時期と重なり、これまで生協との取引がなかった企業・行政・大学などから多くの備蓄品を提供して頂きました。



富谷市との協定締結式

第4回食品産業もったいない大賞 「審査委員会委員長賞」受賞

コープフードバンクは、一般社団法人日本有機資源協会主催の「第4回食品産業もったいない大賞」で「審査委員会委員長賞」を受賞しました。

「災害用備蓄品」の有効活用に着目し、福祉施設や各種団体等へ提供する取り組みが、廃棄食品の削減に大きく貢献しています。また、食品関連企業以外の事業者等からの寄贈など、支援活動の輪が拡がってきているとともに東北6県での活動に展開され、被災地の活力となり、大きく社会貢献している点が評価され、今回の受賞となりました。



受賞式の様子



2016年度上期

こ~ぶほっとわ~く助成金贈呈式

2016年9月17日(土)みやぎ生活協同組合

地域社会への貢献

福祉団体・施設への支援

ふれあい製品のお店「はあと」

セラビ幸町店にある「はあと」のお店は、「仙台市障害者販売業務訓練等事業」の一貫として、福祉施設で作られた製品の展示・販売を行っています。障がいのある方が販売・接客を通して一般就労に向けた経験を積み、社会体験や人間関係など視野を広げる機会となっています。店舗の無償提供を継続し、延べ307人がボランティアとして協力しました。

ありのまま舍会報 折り込みボランティア

難病患者・重度障がい者への理解を広める活動をしている社会福祉法人「ありのまま舍」が毎月発行している会報『自立』の折り込み作業に、延べ72人が協力しました。

「こども食堂」を応援

2014年に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」ができ、貧困世帯や子どもの貧困が社会的問題として取り上げられています。こども食堂は比較的取り組みやすく敷居の低い活動のため、宮城県内では約15ヶ所でこども食堂が立ち上がり、みやぎ生協でも5店舗の集会室(幸町店、桜ヶ丘店、多賀城店、鶴ヶ谷店、荒井店)をこども食堂の場所として提供し、NPOやボランティアグループの取り組みを支援しています。

認知症の理解を広げる取り組み

認知症への理解を広げようと、メンバーが企画する「認知症サポーター養成講座」を42エリアで企画し、868人が参加しました。店舗や共同購入センター・本部職員向けに職場内で認知症サポーター養成講座を開催するための「キャラバンメイト養成講座」には71人が参加し、その後各職場内での講座によって1,221人が認知症サポーターになりました。

また、地域包括支援センターや認知症の人と家族の会が主催する「認知症サロン」に、14店舗・事業所を会場として提供し、地域や団体との連携をすすめています。

みやぎ生協福祉活動助成金

「こ~ぶほっとわ~く助成金」は、2016年度下期から「みやぎ生協福祉活動助成金」となりました。現在の社会的な課題や申請状況を反映し、助成対象を「高齢者・障がい者・児童のための非営利活動」から「地域福祉の向上を目指し、福祉活動に関わる地域活動や研究活動を支援する事業」へ拡大しました。2016年度は、53団体9,234,300円に助成を行い、「こ~ぶほっとわ~く助成金」が始まった1992年からの累計は延べ517団体、105,119,750円となりました。

みやぎ生協福祉活動助成団体一覧

- 七北田小学校親の会 七の川
- 柴田町点詠サークル「はたる」
- 非営利団体 宮城野子ども食堂
- 非営利団体 ハッピーピース
- 子育てサポート 楽っこ(らっこ)
- 一般社団法人 音楽のある暮らしを
- 宮城県精神障がい者家族連合会
- 工藤手話企画
- Vivo2 (ヴィーオーヴィーオーヴィー)
- 特定非営利活動法人 おひさまくらぶ
- 母と子のうたごえサークルあめんば
- 塩釜市精神障がい者家族会(東雲会)
- こみこみ 宮城支部
- 子育て支援サークル おひさまスマイル
- 仮設大橋団地自治会
- 健康講座 ハナミズキ
- ばけっとの会
- 多賀城市高橋東二区町内会
- ざわざわプロジェクト
- NPO法人 大塩みんなの家
- ママンココン運営委員会
- 朗読リラの会
- こども未来フォーラム実行委員会
- みやぎアピール大行動実行委員会
- D-Smile TOHOKU
- 特定非営利活動法人 STORIA
- 太白区育児サークル応援隊たい子さん

2016年度上期 助成数:27団体
助成金 4,582,300円

- 亘理町重症心身障がい児者親の会ベリーの会
- 東仙台子供食堂
- 多賀城市家庭教育支援チーム「あんだん!」
- 特定非営利活動法人 廉の会就労継続支援B型事業所工房びびか
- アトリエうつ布2
- 非営利団体宮城野こども食堂
- はっこり處う月さな
- 特定非営利活動法人アミューズおひさま
- 宮城骨髄バンク登録推進協議会
- 網地島ふるさと案好
- 一般社団法人ラフタヨガ・ネット
- 気仙沼はまらいんや会
- 若草クラブ
- 牛橋区自治会
- NPO法人アートワークショップすんぶちよ
- はっこり会
- 特定非営利活動法人子育て支援アシスト・エフワン
- ななはまっこ
- NPO法人みどり会みどり工房若林
- 朗読リラの会
- ママンココン運営委員会
- NPO法人LIFESET
- 室浜の会
- 皮膚炎患者サークルCalanColon
- おらほのわらすごを宮城の森で育てる会
- 東北大大学インクストーンズ

2016年度下期 助成数:26団体
助成金 4,652,000円

コープトリプルカード みやぎスマイル基金

みやぎ生協と(株)日専連ライフサービスは、2月に「コープトリプルカード みやぎスマイル基金」を設立しました。宮城県内で社会貢献活動を行っている組織、団体を支援(助成)することにより、誰もが安心してくらせる地域作りを目指します。2016年は36件の組織・団体より申請があり、4月に11団体に約300万円を助成しました。



■ユニセフ募金応援キャンペーンにご協力頂いたお取引先様
2016年度第1期(10~11月):50社、第2期(2~3月):51社(順不同、敬称略)

アサヒ飲料(株)、アサヒグループ食品(株)、アズフィット(株)、伊藤園(株)、伊藤ハムデイリー(株)、岩塚製菓(株)、UHA味覚糖(株)、大塚食品(株)、オタフクソース(株)、花王カスタマーマーケティング(株)、カゴメ(株)、亀田製菓(株)、上山製紙(株)、キッコーマン食品(株)、銀河フーズ(株)、国分東北(株)、コカ・コーラライーストジャパン(株)、小山産業(株)、相模屋食料(株)、株式オイルミルズ(株)、シーテック仙都、昭和産業(株)、スミフル(株)、仙水デイリー(株)、ダイショウ、滝沢ハム(株)、東洋水産(株)、日清オイリオグループ(株)、日本ケロッグ(会)、日本ハム東販売(株)、日本生協連東北支所、日本水産(株)、日本製紙クレシア(株)、日本製粉(株)、ネスレ日本(株)、はくばく、はごろもフーズ(株)、はたけなか製麵(株)、(株)フードリエ、(株)不二家、ブリマハム(株)、フルタ製菓(株)、ブルボン(株)、細川製餡(株)、ボッカサッポロフード&ビバレッジ(株)、マルコメ(株)、丸大食品(株)、マルハニチロ(株)、三井農林(株)、(株)Mizkan、三菱アルミニウム(株)、明星食品(株)、明治(株)、桃屋(株)、森永製菓(株)、森永乳業(株)、モランボン(株)、(株)ヤクルト本社、ヤマサ醤油(株)、ユウキ食品(株)、UCC上島珈琲(株)、雪印メグミルク(株)、理研ビタミン(株)

1.はとわく助成金贈呈式(上期) 2.仙台市長懇談会 3.ハンド・イン・ハンド(ユニセフ街頭募金活動) 4.ユニセフキャンペーン協力企業

行政・他団体との協力

首長・議員懇談会

震災後の復興や被災者支援・地域福祉など、首長や議員と懇談し意見を交換する場として、毎年開催しています。2016年度は「誰もが安心してくらせるまちづくり」をテーマに28自治体の首長、8地域の県議・5地域の仙台市議との懇談会を開催し、メンバー709人が参加しました。首長や議員と直接お話しできる場として関心が高い活動です。

宮城県と包括連携協定

2016年6月1日、宮城県と「安心して暮らせる地域づくり」に向けて包括連携協定を締結しました。連携事項13項目について協力しています。

FamilyMart・七ヶ宿町との包括連携協定

2016年7月27日、七ヶ宿町、株式会社ファミリーマートと、3者で「安心して暮らせる地域づくり」を推進することを目的に、6つの連携事項に協力する包括連携協定を締結しました。

日本赤十字との災害協定締結

2016年6月9日、日本赤十字社宮城県支部と「災害時における物資支援協力に関する協定」を締結しました。自治体以外の災害協定締結はこれが初めてです。

募金活動・災害支援

熊本地震への緊急募金・支援

2016年4月14日に発生した熊本地震の被災地を応援するため募金活動を行い、寄せられた総額13,189,403円を熊本県へ贈呈しました。また、4月20日から随時、職員20人を熊本へ派遣し、現地のボランティアセンターや生協くまもとの支援活動などにあたりました。

台風10号・鳥取県中部地震緊急募金

2016年8月30日に北海道・岩手で発生した台風10号の被災者支援緊急募金では3,111,894円、10月21日に発生した鳥取県中部地震への緊急募金では519,932円が寄せられ、各道県の生協連へ寄付しました。

レジ募金

2016年10月27日から、「ユニセフ募金」「コープフードバンク募金」「COOP緑の基金」「盲導犬募金」の募金カードをレジに設置し、買い物と一緒に募金ができるようになりました。

国際社会への支援

様々な途上国支援

特定非営利活動法人「ハンガー・フリー・ワールド」の活動に協力し、書き損じハガキ、切手などを回収・換金し、4つの開発途上国の自立支援の活動と「みやぎ生協平和募金」に役立てています。また、購入を通して参加できる身近な国際支援活動「フェアトレード」についてお知らせする「フェアトレードカフェ」を2017年2月に開催しました。参加者による人気商品投票なども行い、「フェアトレード」の理解を広げることができました。

ユニセフの取り組み

開発途上国の子どもたちの命と健康を守り、子どもたちの未来を支えるユニセフ支援に取り組んでいます。店舗での募金箱設置や応援キャンペーン募金などを実施しています。

■2016年度ユニセフ募資金額

| | |
|-------------------|-------------|
| メンバーからの一般募金 | 6,142,784円 |
| お取引先様キャンペーン募金 | 857,377円 |
| 牛乳パック回収による募金 | 3,309,552円 |
| ペットボトルキャップ回収による募金 | 14,112円 |
| 合計 | 10,323,825円 |

※全体から東ティモール指定募金へ420万円を拠出
※全体からアフリカ干ばつ緊急募金へ100万円を拠出

アフリカ干ばつ緊急募金に100万円拠出

ユニセフからの緊急募金の呼びかけに応え、メンバーからお預かりしているユニセフ募金の中から、2016年9月5日に100万円を緊急拠出しました。

第5章



環境活動



かけがえのない自然・環境を未来に残していく取り組みを進めています。

環境理念

みやぎ生協は、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

1. 「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、重点課題として以下の4項目をメンバーとともに取り組みます。
 - 1) 生協事業におけるCO₂の総量削減
省エネ機器、再生可能エネルギー、BDFなどの普及、拡大によるCO₂の総排出量での削減
 - 2) 事業からの廃棄物の削減・再資源化
事業及び家庭ごみの減量のための発生抑制、再利用、再生利用、熱回収などの推進
 - 3) 環境に配慮した地域社会の構築
市民（メンバー・生活者）、市民団体、自治体、行政などと環境に配慮した地域社会構築の推進
 - 4) 商品事業における環境配慮
みやぎ生協の産直品・地産地消商品、環境配慮商品の取り扱い強化
2. 環境に関する法規制及びみやぎ生協が受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守します。
3. 環境汚染の予防と自ら構築した環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4. 全職員及び業務委託先に教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

みやぎ生活協同組合 理事長 宮本 弘



2



3



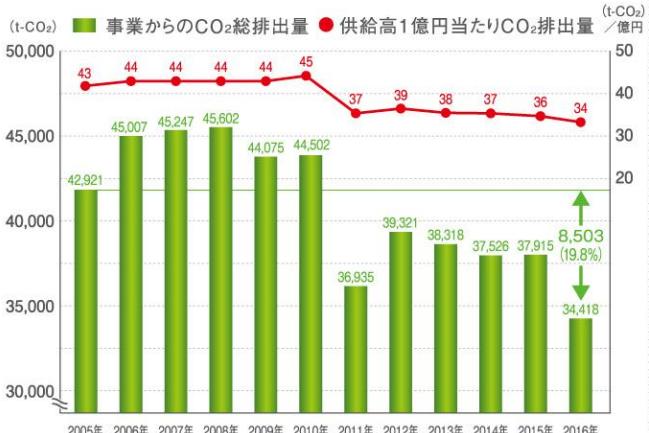
1.太陽光発電(太子堂店) 2.秋田風力発電の説明看板 3.野田木質バイオマス発電所 4.秋田風力発電



低炭素社会の構築に向けて

生協事業におけるCO₂の総量削減

みやぎ生協は、省エネ設備の導入や省エネ運用によって事業におけるCO₂排出量削減に取り組んでいます。削減計画の基準年2005年度の排出量から6,000t(14.0%)以上削減する目標に対して、2016年度は8,503t(19.8%)削減しました。また供給高1億円当たりのCO₂排出量は、2015年度の43tから34tに減りました。さらに2016年4月からは、ほとんどの事業所で電力購入先を東北電力から(株)地球クラブに変更しました。日本生協連の子会社である(株)地球クラブは、再生可能エネルギー比率の高い電力を供給しています。これによりCO₂排出係数は、電気事業連合会平均の排出係数0.423から0.369(現時点)に下がり、排出抑制につながりました。



*2011年度は、震災で多くの事業所が稼動できなかったため排出量が減少しています。

再生可能エネルギーの普及拡大

太陽光発電

2016年度は、太陽光発電設備を新たに荒井店に設置し、合計16事業所、発電能力は560kWとなりました。年間発電量予測は57万kWhで、一般家庭約150世帯分の年間使用量に相当します。これによりCO₂を年間約240t削減できます。

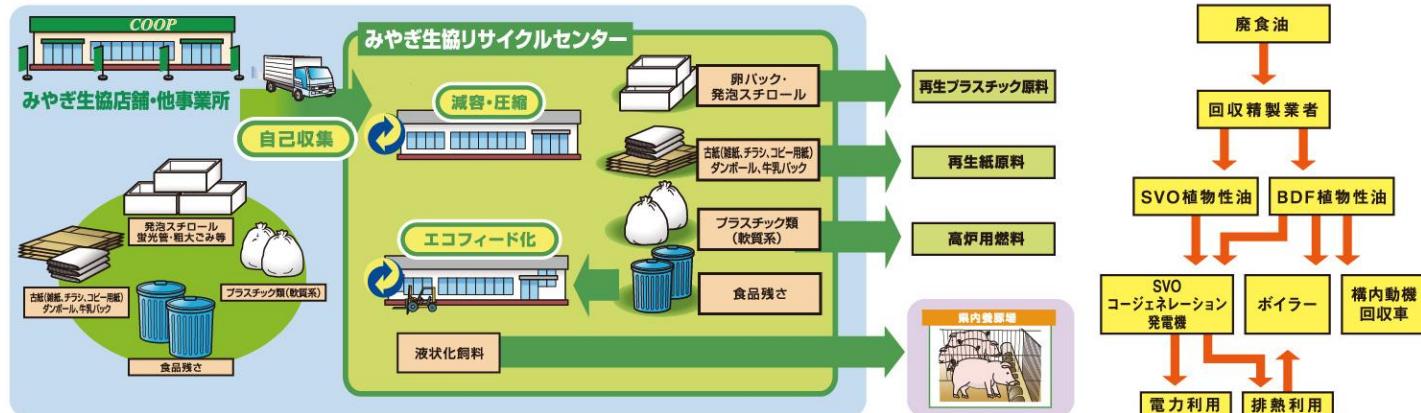
SVOコーチェネレーション発電機

2015年度に、全国で初めてとなるSVO(ストレートベジタブルオイル:廃食油)を燃料としたコーチェネレーション発電機を、リサイクルセンターに導入しました。さらに2017年1月には本部、3月には東センターに1台ずつ設置しました。年間発電量予測は、3台合わせて50万kWhで、一般家庭約140世帯分の年間使用量に相当します。これによりCO₂を年間約210t削減できます。

風力発電事業

みやぎ生協、いわて生協、コープあきたの3生協と3つの会社がコープ東北グリーンエネルギー株式会社に共同出資する形で、2016年10月から風力発電事業を稼働しました。秋田県内の日本海沿岸に2,500kWの風車を3基建設し、メンバーから愛称を募集して、みやぎ生協の2基は「風のめぐみ」「風のつばさ」、いわて生協の風車は「風みらい1号」と名づけられました。年間発電量予測は合計1,650万kWhで、一般家庭約4,500世帯分の年間使用量に相当します。これによりCO₂を年間約6,980t削減できます。

みやぎ生協リサイクルセンターの全体フロー



木質バイオマス発電事業

岩手県野田村で行う木質バイオマス発電事業に、みやぎ生協も出資参画し、2016年9月から稼働しました。発電規模は、出力1万4,000kW、年間総発電量は9,648万kWhで、一般家庭約2万6,800世帯の年間使用量に相当します。青森県津軽、秋田県大仙、岩手県花巻、福島県田村(それぞれ発電能力 6MW、7MW、6MW、7MW)への出資も決めました。CO₂を年間約40,811t削減できます。

福島富岡復興ソーラー発電事業

福島原発事故により農作物の生産ができない農地に太陽光発電事業を立ち上げ、その売電収益を原発被災地域の復興に活用する事業です。みやぎ生協はその事業主体の富岡復興ソーラー合同会社に出資しました。太陽光パネル11万枚を設置し、年間発電量3,670万 kWh、一般家庭約9,900世帯分の年間使用量を発電する計画です。発電した電気は出資率に応じて配分され、生協調達分でCO₂を年間約2,600t削減できます。運転開始は2018年4月からを予定しています。

廃棄物の削減・再資源化

リサイクルセンターの取り組み

みやぎ生協リサイクルセンターは、みやぎ生協の事業所から出る廃棄物を自ら分別、収集、再資源化して環境負荷を低減するために、2006年から稼動しています。みやぎ生協の店舗などの事業

所から回収した古紙、ダンボール、牛乳パック、発泡スチロール、卵パック、プラスチック類などをリサイクルセンターで減容・圧縮し、再資源化しています。全店舗から出る野菜・果物、惣菜、寿司、日配の食品残さを回収し、エコフィード化(食品残さを乳酸発酵で液状飼料化)して県内外の養豚場に出荷しています。これらの取り組みによって、2016年度のリサイクル率は80.7%に、食品リサイクル率は85.6%に向上了しました。

小型家電回収

仙台市の小型家電リサイクルモデル事業に協力して、2015年6月から南光台店、桜ヶ丘店、新田東店、岩切店、南小泉店、六丁の6店舗(昨年荒井店に移設)の6店舗で小型家電の回収を始めました。さらに2016年7月からは古川南店でも回収開始しました。この取り組みは、小型家電の中に含まれる有用金属のリサイクル、資源の有効活用になります。2016年度の回収量は3,883kg、前年比214.9%でした。

家庭用使用済み食用油(廃食油)回収

仙台市の廃食油回収事業に協力し、仙台市内11店舗で使用済み食用油を回収し、その廃食油の売却代を「COOP緑の基金」に寄付しています。このほか、名取西店と加賀野店でも各自治体に協力して回収しています。2016年度の回収量は19,204リットル、前年比117.4%でした。店舗の惣菜部門から出る業務用廃食油は回収業者に売却し、それを精製したBDF(バイオ・ディーゼル・フューエル)を購入して、共同購入の配達車両やリサイクルセンターのボイラーと重機などに活用しています。BDFの使用による2016年度のCO₂削減効果は、150.9tでした。

古紙回収

古紙回収ボックスを34店舗に設置し、メンバーから古紙(新聞紙、チラシ、雑誌など)を回収しています。古紙1kgにつき1ポイントで、300ポイント溜まるとみやぎ生協の店舗で利用できる300円割引券がもらえる「古紙リサイクルポイントシステム」を導入しています。この取り組みは家庭ごみの削減、古紙リサイクルの循環型社会作りに貢献しています。2016年度の回収量は9,366tでした。



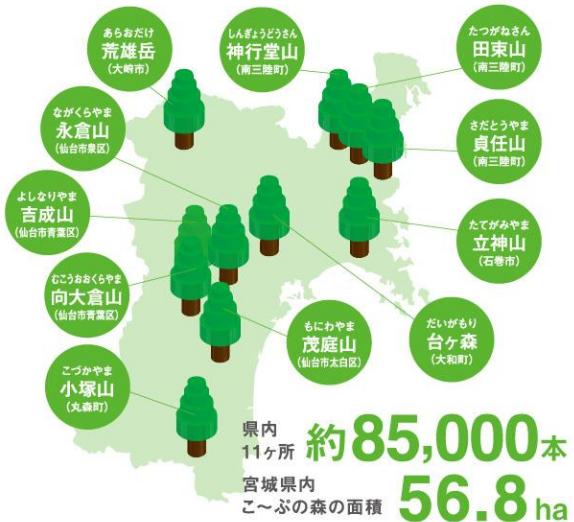


1.こ~ぶの森吉成山植林体験会 2.こ~ぶの森向大倉山の体験会 年輪を数えよう

メンバーの環境活動

「こ~ぶの森」の活動

宮城県内の緑と自然を豊かにするために1992年から“こ~ぶの森”的活動が始まりました。2016年度は「こ~ぶの森吉成山」の1.99haで、地域の植生にあった多種類の広葉樹など4,180本を植林しました。2016年4月10日の植林体験会には、メンバー・職員・協賛企業・地元の小学生親子など80人が参加し、500本の苗木を植えました。



「COOP緑の基金」への募金

メンバーからの募金や協賛企業からのキャンペーン募金のほか、リサイクルの一環として回収しているアルミ缶や廃食油の売却収益金が「COOP緑の基金」になります。2016年度の募金総額は約754万円になりました。この基金をもとに“こ~ぶの森”への植林・育林活動を行っています。

くらしの見直し・家庭の省エネ

省エネクッキングを環境月間やこ~ぶのつどいなど13会場の開催で、313人が参加し、食を通じたCO₂削減の行動についてお知らせしました。また、2016年4月から始まった電力小売自由化に関する学習会を計6回開催し、延べ参加者286人が理解を深めました。女川原発再稼働を考える学習会には57人が参加し、原子力発電に頼らない社会を目指す大切さについて再確認しました。再生可能エネルギー活用の一環として、秋田の風力発電稼働についてお知らせするため、風車の愛称募集(応募108件)を行いました。

環境月間の取り組み

6月5日の「世界環境デー」に合わせた6月の環境月間には、56エリアで店舗と協力しながら環境配慮商品や店頭回収・リサイクルなどを紹介しました。環境配慮商品の利用が温暖化防止などにつながることを具体的な商品を通じてお知らせしました。

生物多様性保全の活動

2016年7月1日～8月31日、「水辺の観察と水質測定」を行い、参加者延べ221人が県内56地点の水質測定や五感を使った観察を行いました。夏休み親子企画「森と水辺の観察会in南三陸」を開催し、親子26人が森林と水辺のつながりを実感し、南三陸の今も視察しました。9月には、他団体と連携しながら「こ~ぶの森向大倉山」で自然観察や間伐作業見学、薪割体験などを行いました。90人が参加し、森の機能や森林の活用などについて学ぶ機会としました。

◆こ~ぶの森の活動についての詳細はこちらからご覧になれます。

<http://www.miagi.coop/member/kankyou/coop-woods/01.html>

◆みやぎの水辺ものがたりについての詳細はこちらからご覧になれます。

<http://www.miagi-mizube.com/>

商品事業における環境配慮

環境配慮商品の普及拡大

みやぎ生協は、「顔とくらしの見える産直めぐみ野」商品、地産地消商品、環境配慮商品の普及拡大によって、低炭素社会、循環型社会、自然との共生（生物多様性）をめざしています。

めぐみ野米の普及拡大

めぐみ野米は特別栽培米（農薬・化学肥料節減栽培と一部、農薬・化学肥料不使用栽培）の宮城県の表示認証を受けています。カーボンフットプリント（CFP）商品として生産過程のCO₂の排出量を表示し、田植え、稲刈り体験、生き物調査などメンバーとの交流と環境保全型の米つくりをすすめています。

CFP（カーボンフットプリント）



「めぐみ野米 ひとめぼれ5kg」での表示例

CFP（カーボンフットプリント）とは

商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂に換算して、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組み。LCA（ライフサイクル アセスメント）手法を活用し、環境負荷を定量的に算定します。

（環境配慮商品ラベル）



有機JAS



特別栽培農産物



MSC (持続可能な漁業のための原則と基準)



エコマーク



レインフォレスト・アライアンス（認証商品）



レインフォレスト・アライアンスとは

地球環境保全のため、熱帯雨林を維持する目的で1987年に設立された国際的な非営利団体です。地元のパートナー団体と共に農業の持続可能な基準を開発、推進しています。この認証商品は厳しい基準によって環境を保護し、労働者、家族、共同体全体の福利の発展をめざします。

環境マネジメント

環境会計

- ◆環境保全の投資コスト額:2億9,481万円（前年度2億8,182万円）
新店の荒井店に高効率冷凍機やCO₂自然冷媒冷凍機、太陽光発電設備を導入。西多賀店と幸町店の改装で高効率冷凍機を導入、既存店13店舗のバックヤードにLED照明を導入、本部にSVOコージェネレーション発電機を導入しました。
- ◆環境保全の費用額:4億7,681万円（前年度5億1,553万円）
省エネ設備の導入費用と過去年度に導入した分の償却費用や環境配慮商品の購入費用が前年度より減りました。
- ◆環境保全対策に伴う経済効果:8,416万円（前年度2億3,385万円）
経済効果の主なものは、リサイクルによる再資源化の売却収入や省エネ機器によるエネルギー使用経費の削減です。
- ◆環境関連の寄付と募金合計:1,559万円（前年度1,598万円）

環境に関する法規制とご意見

- ◆環境に関する法規制28項目とその他の基準や協定など7項目あり、すべて適切に管理しました。
- ◆環境に関するお申し出は0件、ご意見は12件でした。

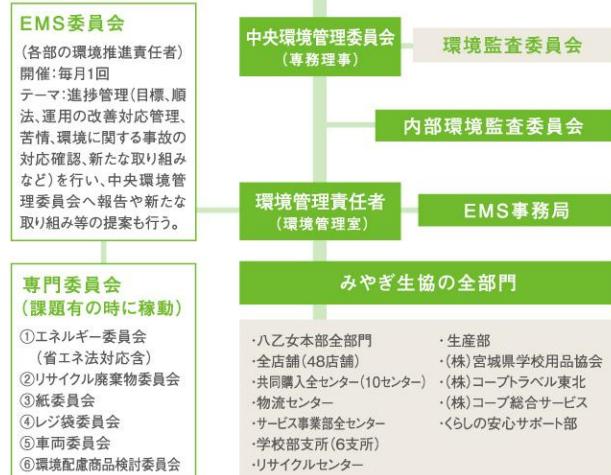
| 主な項目 | 件数 |
|------------|----|
| ①リサイクルについて | 7件 |
| ②施設環境について | 4件 |
| ③発電事業について | 1件 |

PDCAサイクル

みやぎ生協は2013年度にISO14001を返上しましたが、「環境マネジメントシステム(EMS)」の継続は組織にとって有益と考え、継続運用しています。



環境管理体制



外部環境監査、内部環境監査

2017年4月15日

外部環境監査

みやぎ生活協同組合
理事長 宮本 弘様

環境監査委員会
委員長 遠藤智栄
委員 大村 泉 高橋誠子
高橋春男 中田俊彦
福田幸子 湊 加津江

当委員会は、みやぎ生協環境管理規定第14条、同環境監査規定第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

【環境監査の実施日】

第1回 2016年11月19日(土) 2016年度上期環境監査:書類監査、荒井店視察
第2回 2017年 4月15日(土) 2016年度環境監査:書類監査および総合監査

【評価事項】

- 環境への投資(LED照明導入など)を着実にすすめ、その効果を継続して検証していること。また環境に関する社会活動(こ~ぷの森づくりなど)を継続していること。
- 従来のCO₂削減の取り組みに加えて、国際社会の動向を踏まえ日本生協連と連携して新たな目標を設定し、今後の活動方針に反映させていること。
- 電力の購入先を再生可能エネルギー構成比の高い電力に切り替えて、事業活動からのCO₂を削減したこと。
- グリーンな電力投資の多様化が求められている時代に、東北各地の生協と連携して、木質バイオマスや福島富岡でのメガソーラーに出資をし、実績を重ねていること。
- みやぎ生協の消費電力量に占める再生可能エネルギーの割合を36.5%相當にしたこと。
- メンバーとの環境活動において、電力自由化の学習会を実施し、再生可能エネルギーの理解を深める機会を設けたこと。
- 環境配慮商品のめぐみ野商品の種類が増えたことや学習会、産地見学、推奨活動の実施などにより地産地消商品を普及させたこと。

【指摘事項】

- LPGと都市ガス、電気などの使用量・購入先を区別して表示し、わかりやすい図表を用いること。
- エネルギー・紙資源の使用が急増している項目について精査し、必要に応じ対策を考えること。
- 再生可能エネルギーの発電を進めるとともに、メンバーや来店者に対しそのことをわかりやすく発信すること。
- 店づくりやレイアウトにおいて、環境配慮の独自性(内装、照明など)をさらに体感できるように検討すること。

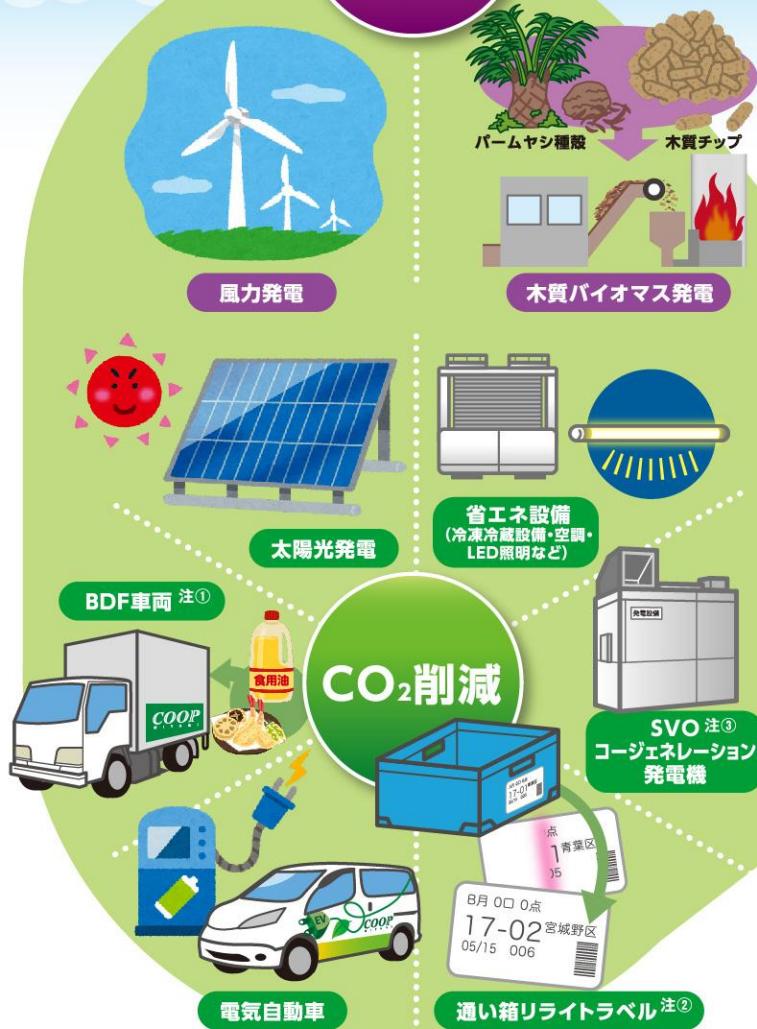
以上

内部環境監査

- 実施期間 : 2016年7月15日(金)～2016年8月31日(水)
○監査員 : 主任監査員1人、監査員22人。 監査チーム2人1組で編成。
○監査所見 : 総数32件:内訳は要改善事項25件、+評価事項6件、意見1件

| | |
|------|---|
| 総合所見 | (1)みやぎ生協の環境マネジメントシステムが適切に運用されている事を確認しました。更に実態に即したシステムの整備・運用を行なってください。 (2)環境目的・目標の進捗と運用管理の状況 ①環境目標は、環境管理計画及び進捗管理表等により実施状況が管理されており、有効に運用されていることを確認しました。 ②業務課題を環境目標として設定し取り組んでおり、ISO認証返上後も継続して組織の中に環境マネジメントシステムが維持されています。 (3)運用管理と順法事項の状況 運用管理と順法事項は一部「要改善」事項がありました。特に「冷ケースの平台ロードラインをオーバーしている」とと「冷ケースの冷気吸込口を塞いでいる」ことの「要改善」事項が多数ありました。これは冷ケースの電気使用効率を悪くしますし、商品の品温管理上も問題です。店舗運営部と商品部で陳列ルールを再確認して、店舗職員と目線合わせをしてください。 (4)重点監査事項 「産業廃棄物保管場所の表示がない」という「要改善」事項は、昨年6件から今年3件に減りました。これは順法事項ですので、「要改善」がゼロになるまで改善が求められます。 |
| | ◆環境に関する取り組みの詳細は下記のURLからご覧ください。 http://www.miagi.coop/member/kankyou/ |

再生可能
エネルギー
の普及



みやぎ生協の環境活動



環境に配慮した地域社会づくり

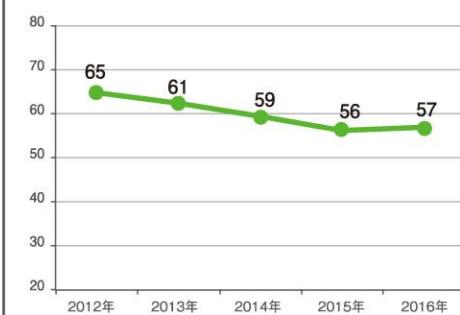


注①:BDF(バイオディーゼルフューエル):植物由来の廃食油を化学処理して作られる軽油代替燃料のこと。
注②:通り箱リライトラベル:共同購入の通り箱のラベルを剥がさずに繰り返し印字できるシステム。

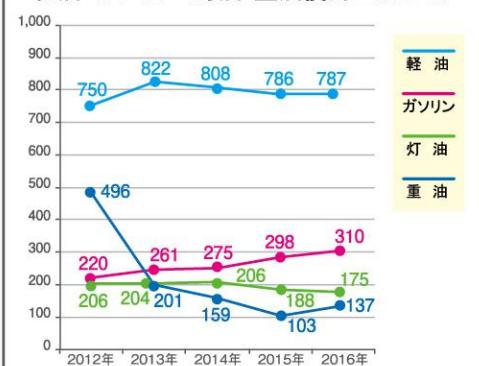
電気使用量 (単位:万kWh)



LPGと都市ガス使用量合計 (単位:万m³)



軽油・ガソリン・灯油・重油使用量 (単位:kL)



「めぐみ野」環境配慮商品の普及



※P38 の環境配慮商品をご参照下さい。



見直し活動



注③:SVO(ストレートベジタブルオイル):植物由来の廃食用油を物理的に処理して作られる軽油代替燃料のこと。
SVOコージェネレーション発電機:SVOを燃料にして電気と熱エネルギーを活用する設備。

学習活動



化石燃料の代替エネルギー使用によるCO₂削減効果 (単位:t)



メンバーからの回収量の推移 (1) (単位:t)



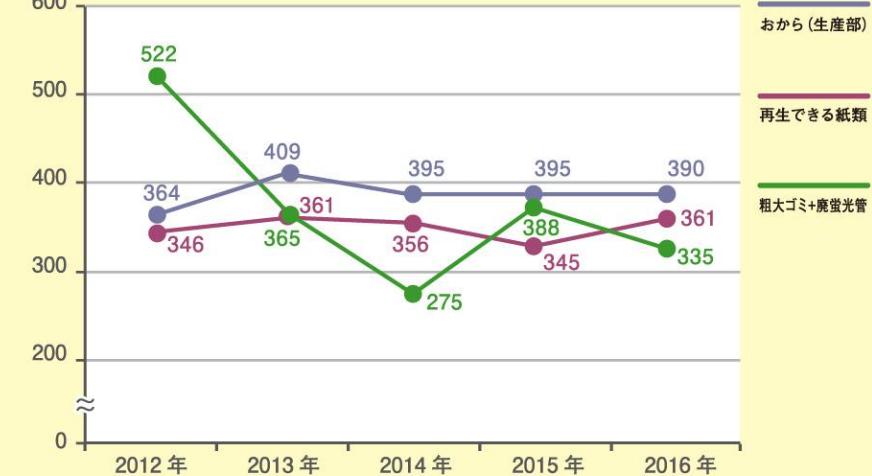
メンバーからの回収量の推移 (2) (単位:t)



事業排出物の再資源化量の推移 (1) (単位:t)



事業排出物の再資源化量の推移 (2) (単位:t)





みやぎ生活協同組合

CSR Report 2016年度 社会・事業・環境活動についての報告書

発行日:2017年5月20日

発行:みやぎ生活協同組合
〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

お問い合わせ先

- 機関運営部広報課 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821
- 環境活動に関する詳細は環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス みやぎ生活協同組合 <http://www.miyagi.coop/>
本報告書はホームページに掲載、ダウンロードできます。

